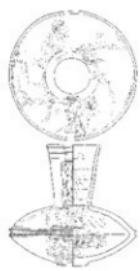


岡山大学埋蔵文化財調査研究センター

紀要
2001



2003年3月
岡山大学埋蔵文化財調査研究センター



〔図 3〕津島南大溝跡第10次調査
(東京都立埋蔵文化センター) 出土の鏡形埴
(弥生時代後期 棚戸1・8)
〔実物〕津島南大溝跡第9次調査
(工業都市埋蔵文化用工作所跡)
出土の鉢(東文時代後期 棚戸1・6)

岡山大学埋蔵文化財調査研究センター紀要

2001

2003年3月

岡山大学埋蔵文化財調査研究センター

序

2001（平成13）年度は、事務局本部棟と創立五十周年記念館の建設にかかる発掘調査を実施しました。後者の調査は2002（平成14）年度が主体でしたが、両者合わせて約3200平方メートルという調査面積となりました。全国的には公共土木事業が減少し事前の発掘調査が減少傾向にありますが、本学ではなお施設建設予定地での発掘調査に急ぎ対応しなければならない状態が続いています。そのため、これまでの発掘調査において出土した資料の整理や報告書作成の作業にかなりの遅れがでており、2001年度に刊行し得た報告書が1冊もなかったのは遺憾がありました。重要な調査成果の正報告ができるだけ早い時期に刊行できるよう、今後とも工夫をかさねてゆくつもりです。

一方、調査成果の展示・公開については新たな展開がありました。2002年4月から文学部考古学陳列館の一部が新築なった文化科学系総合研究棟に移転するにともなって新たに岡山大学考古資料展示室が開設され、本センターの保管する出土資料もあわせて展示することになりました。文学部考古学講座においては、従来から弥生・古墳時代の墳墓の発掘調査が多くなされてきたほか、旧石器時代遺跡の調査や瀬戸内海海底産動物化石の収集が進められてきました。他方、本センターが調査対象としている本学津島地区では縄文時代遺跡と弥生・古墳時代の水田造構が多く、鹿田地区では弥生時代から古代・中世に及ぶ集落遺構が多いという特色をもっています。本センターと考古学講座の調査対象は、遺跡の時代という点からも内容という点からもちようど互いに補い合う関係にあり、考古資料によって歴史を復元するにはまことに適切な調査資料に恵まれたといえるわけです。2001年度の後半には本センターと考古学講座の関係者一同が展示の準備作業にあたり、2002年4月9日に無事開設式を迎えることができました。本学内外のできるだけ幅広い方々にこれまでの調査研究の成果をご覧いただければと願っています。

本年度の発掘調査実施にあたっては、事務局および岡山大学創立五十周年記念事業後援会のご支援をいただきました。その他事業にご協力いただいた方々も含め、各機関・各位にあらためてお礼申し上げます。

岡山大学埋蔵文化財調査研究センター長

稻 田 孝 司

例　　言

- 1 本紀要は、岡山大学埋蔵文化財調査研究センターが岡山大学構内において2001年4月1日から2002年3月31日までに実施した埋蔵文化財の調査研究成果、及びセンターの活動についてまとめたものである。
- 2 大学構内の埋蔵文化財の調査に関しては、設定基準を次のように定めている。なお、以下で使用している座標系は「測量法及び水路業務法の一部を改正する法律」(以下「改正法」)施行前の日本測地系に基づくものである。
 - 1) 津島地区では、国土座標第V座標系 ($X = -144,500\text{m}$, $Y = -37,000\text{m}$) を起点とし、同座標系の座標北を基軸とした構内座標を設定した。一辺50mの方形区画である。また同地区では調査の便宜上、大きく津島北地区と同南地区に二分する(図5)。
 - 2) 鹿田地区では、国土座標第V座標系 ($X = -149,800\text{m}$, $Y = -37,400\text{m}$) を起点とし、座標軸をN-15°-Eに据ったものを基軸とした構内座標を設定した。地区割は一辺5mの方形を基準として用いており、図で示す場合は一辺10m四方の方形地区割りを用いている。
 - 3) 本文中で用いる方位は、津島地区・鹿田地区は国土座標系の座標北を、他は磁北を用いている。
※なお、平成14年(2002年)4月1日より施行された改正法に基づき、世界測地系より算出した新座標から作成した設定基準は、刊行物では2003年度発行分から、調査では2003年度以降に開始するものから順次使用していく予定である。
- 3 岡山大学構内の遺跡の名称は、周知の遺跡の場合はそのまま踏襲する。津島地区構内については、全域を「津島岡大遺跡」と総称する。三朝地区の発掘調査地点は小字名をとり「福呂遺跡」と呼称する。他地区は任意の名称で仮称する。
- 4 調査名称は、「発掘調査」に分類したものについては、各遺跡毎に調査順に従って次数番号で呼称し、「試掘・確認調査」「立会調査」に分類したものについては、任意の名称を用いる。発掘調査のうち、小規模で確認調査から連続して調査したものは、「試掘・確認調査」に分類する。
- 5 「発掘調査」についての記述は現段階における概要であり、詳細は正式報告によっていただきたい。「試掘・確認調査」については、本紀要での記述を正式報告に代える。
- 6 表に記載した所属部は、原則として各学部の頭文字を略号として用いている。
- 7 附表2に掲載する調査一覧については、中世層まで掘削したものを対象とし、その他については除外した。未掲載のデータについては、当センターにおいて管理している。
- 8 本文・目次・挿図・写真などで使用の調査番号は表と一致する。
- 9 本文は忽那敬三・高田浩司・野崎貴博・光木順・山本悦世・横田美香が分担執筆し、執筆者名を末尾に記した。
- 10 編集は、稻田孝司センター長の指導のもとに、忽那敬三が担当した。
- 11 本紀要に掲載の地形図は、すべて国土地理院発行の1/25000「岡山北部」を複写したものである。

岡山大学埋蔵文化財調査研究センター紀要2001

目 次

第1章 津島岡大遺跡の調査研究

第1節 発掘調査概要	1. 津島岡大遺跡第26次調査（事務局本部棟・共同溝）	1
	2. 津島岡大遺跡第27次調査（創立五十周年記念館）	4
第2節 その他の調査		6

第2章 鹿田遺跡の調査研究

近世の櫛について	13
----------	----

第3章 調査資料の整理・研究と展示・公開

第1節 調査資料の整理・研究	16
1. 調査資料の整理・分析	16
2. 出土資料の保存処理	18
3. 出土資料の科学分析	20
(1) 津島岡大遺跡第19次調査の河道内堆積物の粒度組成分析	20
(2) 津島岡大遺跡第23次調査出土木材の樹種同定について	22
第2節 調査成果の展示・公開	24
1. 成果速報展の概要と傾向	24
2. 考古資料展示の方法と実践	26
第3節 2001年度調査研究員の個別研究活動	28
1. 科学研究費採択状況	28
2. 資料収集実態調査	28
3. 研究発表等	28
4. 論文・資料報告	28

第4章 2001年度における調査・研究活動

附編	31
岡山大学構内埋蔵文化財保護対策要項	31
1. 岡山大学埋蔵文化財調査研究センターの内部規程	31
2. 2001年度埋蔵文化財調査研究センター組織	34
(1) センター組織一覧	34
(2) 運営委員会	34
3. 2001年度審議・決定事項	35
4. 岡山大学構内遺跡の発掘調査にかかる安全管理事項	35

附表	37
----	----

挿 図 目 次

図1 第26・27次調査地点位置図	1
図2 第26次調査土層断面図・遺構全体図	2
図3 第27次調査土層断面位置図・土層断面図	5
図4 第27次調査5層上面検出遺構	5
図5 津島地区全体図	7
図6 今年度の調査地点（1）津島地区	9
図7 今年度の調査地点（2）鹿田地区	11
図8 鹿田遺跡第12次調査出土の櫛	13
図9 鹿田遺跡第12次調査 近世の遺構全体図	14
図10 鹿田遺跡第9次調査出土木筒	18
図11 三角座標による各資料の分類	20
図12 通過質量百分率と粒度との関係を示した積算曲線	21
図13 見学者の学内・学外の比率	24
図14 見学者の印象に残ったもの	24
図15 考古資料展示室展示配置概略図	26
図16 2000年度までの調査地点（1）津島地区	47
図17 2000年度までの調査地点（2）鹿田地区	49
図18 1998年度までの調査地点 三朝地区	50

写 真 目 次

写真1 櫛の出土状況	14
写真2 文字の残存状況	15
写真3 種子の選別作業	16
写真4 津島岡大遺跡出土種子	16
写真5 先端を焼いた痕跡	17
写真6 処理前の猿形木製品	18
写真7 切片の採取状況	23
写真8 井戸枠の説明風景	25
写真9 土器接合の体験コーナー	25
写真10 縦面ケースの展示状況	27

表 目 次

表1 2001年度調査一覧	6
表2 2001年度室内作業一覧	17

表3 第5期木器保存処理工程	19
表4 2001年度に外部処理を委託した遺物一覧	19
表5 2000年度以前の木器処理工程	19
表6 津島岡大遺跡第23次調査出土の自然木の樹種	22
附表1 1982年度以前の構内主要調査（1980～1982年度）	37
附表2 2000年度以前の構内主要調査（1983～2000年度）	37
附表2-(1)発掘調査	37
附表2-(2)試掘・確認調査	39
附表2-(3)立会調査	40
附表3 収蔵遺物概要	43
附表4 埋蔵文化財調査室刊行物	44
附表5 埋蔵文化財調査研究センター刊行物	44

第1章 津島岡大遺跡の調査研究

第1節 発掘調査概要

1. 津島岡大遺跡第26次調査（事務局本部棟・共同溝・津島南BC・BD14-BB・BC・BD15）

a. 調査の成果

本調査では、近世から近代にかけて使用された溝・土坑・畦畔の痕跡、弥生時代の溝・土坑・貯蔵穴および縄文～弥生時代の河道、縄文時代の焼土遺構などを検出した。本調査地点周辺ではこれまで発掘調査を行っていないかったが、この調査で土地の利用状況について知見を得ることができた。

近代から近世では、東西方向の溝を確認した。この溝と、第12次調査（附属図書館）で確認した条里の坪境と考えている溝の距離は、約330mを測る。このことから、距離的にみれば本調査地点の溝も条里と関連する可能性がある。また、条里の坪境に合致する可能性が高い。弥生時代の溝は、北東～南西方向の河道に沿うかたちで構築されていた。このほか、縄文時代には大小2本の河道が北東～南西方向にはしり、その間に黄褐色砂質土が堆積する微高地が島状に形成されていた。そのうち、共同溝部分の微高地上では、土坑や炉や焼土遺構を検出している。

調査機関：2001年3月26日～7月18日、8月6日～9月28日

調査面積：1550m²

主な遺構・遺物：近世から近代の溝1・土坑35、縄文から弥生時代の河道、弥生時代早期の貯蔵穴4・土坑9、縄文時代後期の炉跡3・焼土遺構2・土坑7、突審文土器、縄文時代後期の土器

b. 調査の経過

- A区（本部棟） 調査は4月3日から開始し、5月の前半までに中世と古代の遺構を検出した。5月後半から河道の検出と掘り下げを行い、並行して微高地部分で弥生から縄文時代の遺構を検出し、7月18日に終了した。
- B区（共同溝） 8月6～7日に重機による造成土除去を経て、8月7日から調査を開始した。中世の溝、縄文時代の河道・炉跡・土坑などの遺構を検出して9月28日に終了した。

c. 調査の概要

①層序

- 1層：1907年～1908年にかけて旧日本陸軍によって行われた屯管地建設に伴う造成土である。現地表は標高4.5m前後である。
- 2層：近代の耕作土で、上面では明治時代の畑の歴を確認した。
- 3～5層：近世耕作土で、洪水によって短期間に堆積した土層と考えられる。地形の低い部分に堆積しており、A区部分の南半と北東部分とB区部分の南部では堆積を確認できなかった。造成土除去の際は5層までを重機で掘

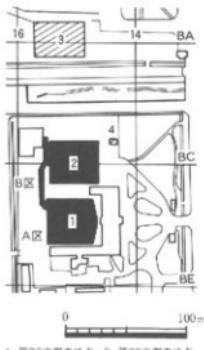


図1 第26・27次調査地点位置図
(縮尺1/400)

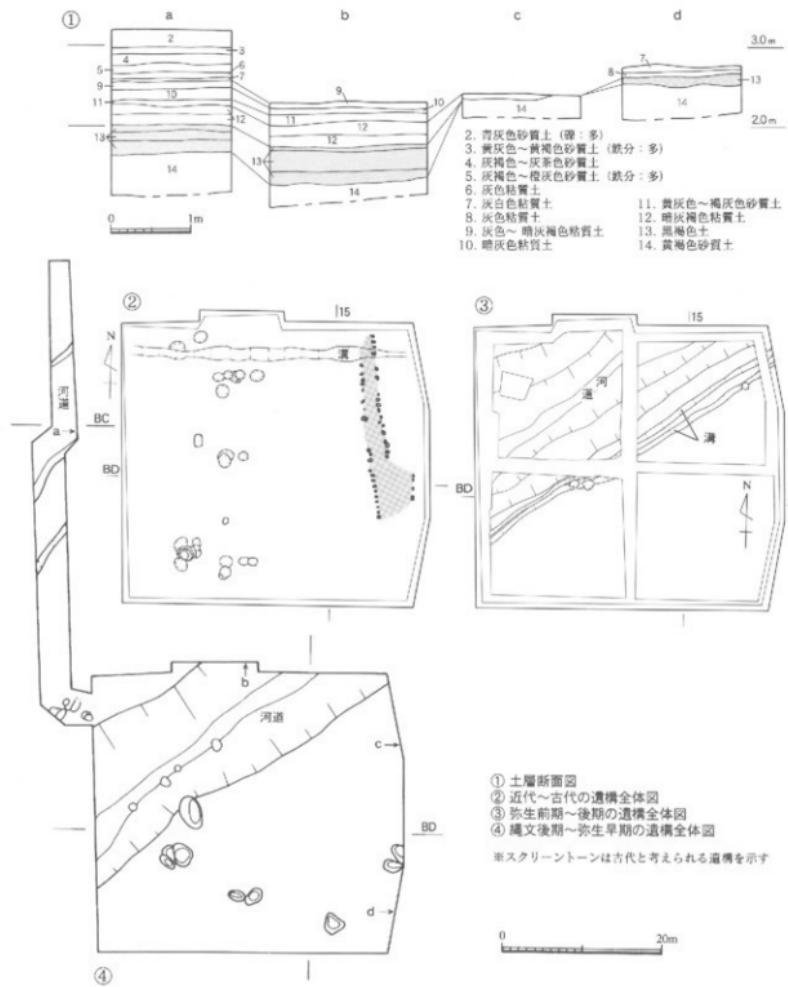


図2 第26次調査土層断面図（縮尺1/60）・遺構全体図（縮尺1/600）

削した。

6a～7層：中世の耕作土であり、遺物量はきわめて少なかった。

8・9層：古代と考えられる土層である。地形の高い部分では堆積を確認できなかった。遺物量が少ない。

10層：古墳時代の土層と考えられる。

11・12層：弥生時代中期から後期に想定される。11層は微高地部分と河道のある低位部に堆積する。12層は河道内で堆積を確認した。

13層：いわゆる「黒色土」で、谷部では粘性を帯びており、三層に分層される。B区では上面で畦畔を検出した。

14層：縄文時代後期の基盤層である。

②地形

縄文時代にはA区内を北東から南西方向に横切る河道が存在した。その両岸には黄褐色砂質土が堆積した微高地が広がる。B区部分ではこの微高地の北側にも小規模な河道がある。さらにその北側には、再び微高地が広がる。この微高地は第23次調査地で確認した河道の南側につながっていくと推定でき、微高地の範囲は狭かったとみられる。こうした状況から、本調査地点周辺は、狭い範囲の中に北西～南東方向にはしる大小の河道が幾筋かあり、微高地が島状に点在するような地形であったと考えられる。その河道部分も、弥生時代の間には埋まつていく。また、A区の河道の南岸にある微高地部分は、縄文時代の基盤層上に中世の土層が堆積していた。この部分は地形が高かったために、弥生時代から古代の土層が削平をうけてなくなったのであろう。中世の段階には、地形はほぼ平坦になる。

③遺構・遺物の概要

〈近代～古代〉近代から近世の遺構としては東西方向の溝1条と土坑35基を検出した。溝の規模は幅1.5～2m、深さ30～50cmである。木製の桶門が2カ所に設置されており、用水路として機能していたようである。中世の遺構としては南北方向の溝を4条確認した。いずれの溝も、南に行くにつながって底面のレベルが高くなっていく。古代と考えられる遺構は、一辺50cm前後で深さ5～10cmの方形のビットである。これは調査区の東辺で南北方向に2列にならぶ。

〈弥生時代〉弥生時代中期から後期の遺構は溝2条と土坑2基である。溝はいずれも幅60cm・深さ30cm前後で、北東～南西方向にはしり、埋土からは中期の土器が出土している。弥生時代早期から前期の遺構としては、河道内では貯蔵穴を4基、微高地で土坑9基を確認した。貯蔵穴の一つからは突帯文土器が出土しており、遺構の時期を示しているとみられる。土坑は平面形が2～3mのいびつな隅丸三角形、深さは80～100cmで、断面形はV字形に近い。

〈縄文時代後期〉遺構はA区で河道を、B区で炉跡3基、焼土遺構2、土坑7基、溝1条、河道を確認した。最も残りの良い炉跡では、焚き口と燃焼部と考えられる構造を確認できた。燃焼部は深さ75cmで、最下層に炭層がある。また、下から1／3付近の壁面が焼けたために赤化している。焚き口部分は深さ10～20cmで、燃焼部に近づくにつれ深くなっていく。土坑は長さ50cm～80cm、深さ30～50cmの規模である。このうちの一つから後期の土器が出土した。溝は幅2m、深さ30cmを測る。A区の河道は幅約20m・深さ約1.5mである。B区の河道は小規模で幅10m前後である。B区の河道の底面では、後期の土器が出土した。
(横田)

2. 津島岡大遺跡第27次調査（創立五十周年記念館 津島南 BB14・15、BC14・15）

a. 調査の成果

今年度行った調査では、主に中世に属する時期で、畦畔、土坑、溝などを検出した。その内、特に注目されるものは条里閑連の遺構で、調査区西半の坪境にあたると推定できる場所において、南北方向に大畦畔を検出した。また、中世層は数層にわたりて厚く堆積しており、洪水に襲われた耕作地や大畦畔を幾度もつくり直し、長期間利用している状況を確認することができた。今回の調査で検出した条里閑連の遺構は、中世における条里の基準線の一つとなる可能性があるもので、大学周辺のみならず岡山平野における条里制の実態を解明するための重要な資料となると思われる。

調査機関：2002年1月17日～3月31日

調査面積：1648m²

主な遺構・遺物：中世～近世の坪境畦畔、畝、土坑3基、溝6条、土師質土器、陶磁器

b. 調査の経過

- 造成土の除去 2002年1月17日～1月29日まで重機による掘削を行い、旧日本陸軍屯營地建設の際の造成土に加えて、遺構・遺物が希薄であることが判明している近代層と近世層の一部まで除去した。
- 調査の開始 2・3月に近世・中世の調査を行い、土壌・溝・ピット・畦畔・畝などを検出し、次年度に調査を継続した。

c. 調査の概要

①層序（図3）

- 1層：約0.7～0.9mの厚さで堆積する旧日本陸軍による屯營地建設に伴う造成土である。
2層：明治時代の耕作土で、上面に南北方向の畝がみられた。
3層：近世に属すると思われるが、遺構は検出できなかった。
4層：調査区西半において、南北方向にのびる坪境の畦畔と畑の畝を検出した。中世に属すると思われる。
5層：調査を全域で耕作痕と思われる浅い溝状の遺構を多數検出した。また、4層とほぼ同じ位置に、坪境の畦畔を検出した（図4）。

6・7層：6・7各層で、4・5層とほぼ同じ場所に畦畔を検出した。

8・9層：溝・ピットを検出した。

5～9層はいずれも中世層で、約0.5～0.65mの厚さで堆積している。9層以外は全体的に砂質が強く、比較的短期間のうちに周辺河川の洪水によってかなりの土砂が堆積したことがわかる。

②遺構の概要

〈中世〉調査区の西半において南北方向に伸びる畦畔と畑の畝を検出した。畦畔は坪境にあたる場所に約2mの幅で築かれており、畝はその両脇に広がっていた。畝がつくられている土層はかなり砂質が強く、洪水によって形成された砂地を畑として利用している状況が判明した。畦畔は、ほぼ同じ場所で複数回つくり直されており、坪境の畦畔として長期間利用されていたことがわかる。南側の一部では、畦畔の上面に草木の根が巣かれている箇所もみられた。

その他に溝を2条検出した。調査区北西で確認した溝は、ほぼ東西方向にはしり、底部に列状に並ぶピットを

検出した。もう1本の溝は調査区南西において検出し、南北方向に浅くたわみ状に伸び、底部に不定形な窪みを多数もつものであった。

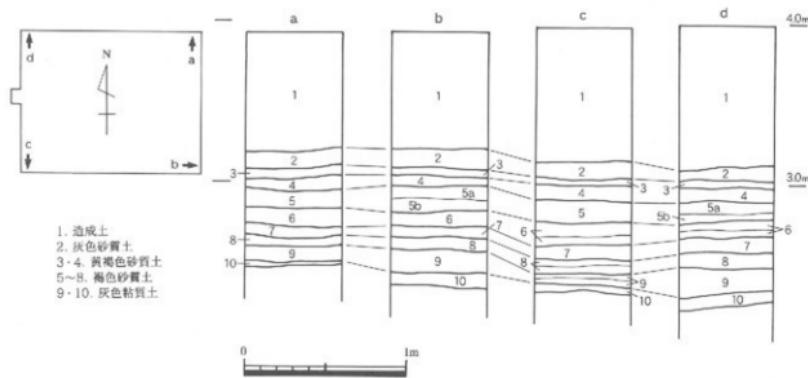


図3 第27次調査土層断面位置図（左）・土層断面図（右）（縮尺1/30）

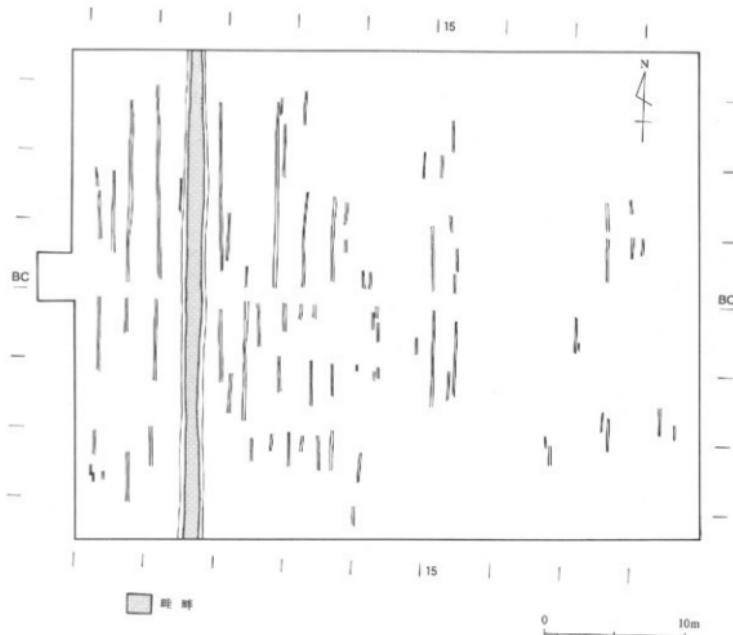


図4 第27次調査5層上面検出溝（縮尺1/3500）

第2節 その他の調査

a. 津島地区

津島地区において、2001年度は発掘調査を2件、立会調査を33件実施した。発掘調査は事務局本部棟・共同講（第26次調査）と創立五十周年記念館（第27次調査）の新宮に伴って行ったものである。また、これらの施設の建築に伴い、周辺で多数の立会調査を実施している。北地区の理学部中庭で中世溝を検出しているほか、南地区的薬学部の東側では現地表下2.1mまで掘削しながら黒色土層を確認しておらず、第23次調査の河道あるいはまた別の河道の存在が想定される。この地点は、第26次と第27次の調査地点は津島西南地区の西半部でも東寄りに位置する。この付近ではこれまで発掘調査をほとんど行なったことがなかったため状況が明らかでなかったが、これらの発掘や立会調査で地形や土地利用の状況などについて重要な見知りを得ることができた。（横田）

b. 鹿田地区

発掘調査については、昨年度から継続していた鹿田遺跡第12次調査を2001年5月まで実施し、概要については、すでに昨年度刊行した「岡山大学構内遺跡発掘調査年報18」において報告している。立会調査については6カ所行っている。そのうち、総合研究棟埋蔵文化財発掘調査に伴う機械設置工事では、一部で中世土器片が比較的多く出土する箇所があったが周囲に遺構等は確認できなかった。その他に3カ所で包含層まで達する掘削を行ったが、いずれも遺構・遺物等はみられなかった。なお、今年度は試掘・確認調査を行っていない。（高田）

表1 2001年度調査一覧

番号	種類	調査地区	標高 標高	標高 標高	所属	調査名 称	調査期間	掘削深度	備 考
1	発掘	津島南	BC-BD14 -15		事	事務局本部新館に伴う発掘調査	01. 3. 26～ 01. 9. 28	2.2～3.0	開地面積1550m ² 。近江の砂円。構文・井手の 河底・斎戒穴・「枕・かの筋」(津島西大通跡 第25次調査)
2	発掘	津島南	BH-BC14 -15		研	創立五十周年記念館新宮に伴う発掘調査	02. 2. 1～ 03. 6. 24	1.8～2.7	発先面積1648m ² 。若世の町村(津島西大通跡 第27次調査)
3	立会	鹿田	CR14		区	保健学科内構外工設置工事	01. 4. 25	1.2	造成土中
4	立会	津島北	AZ10		理	理学部校舎改修電気設備工事	01. 5. 17	1.6	ハンドホール部分で中世の漆
5	立会	津島北	AV-AN11		事	李植物新施設電気設備工事(外設工事)	01. 6. 5～6. 13	0.9～1.3	造成土中
6	立会	津島南	BB15～16		事	本部棟設置工事(ガス管)	01. 6. 15～6. 20	1.1～1.3	大字が造成土中、一部でGL. 0.9mで褐色 粘質土・GL. 1.0mで黄褐色土層
7	立会	津島北	AW00～01		理	環境理工学部温帯用給排水設備工事	01. 6. 18	0.7	造成土中
8	立会	津島北	AW06		事	キャンパス情報ネットワーク工事	01. 6. 22	0.6	造成土中
9	立会	津島北	AZ13～15	文法 経	総合研究棟(ガス管)	01. 6. 25～7. 4	1.5	近距離まで掘削	
10	立会	津島北	AZ-BA14～ AZ15	文法 経	総合研究棟(電気ケーブル工事)	01. 6. 29～7. 6	1.1～1.5	造成土中もしくは既設工事内	
11	立会	津島南	BH-BC15		事	本部棟電気設備工事	01. 7. 5	1.5～2.1	GL. 1.4mで灰色粘土で、GL. 2.1mまで 灰色粘土。谷筋にある可能性あり。
12	立会	津島南	BB15		事	土建工事(脚矢板打込)に先行する既設地物 基礎確認のための工事	01. 7. 17	1.0	造成土中
13	立会	津島南	BB14		事	本部棟内構取設工事	01. 7. 26	1.0	GL. 0.6mで灰色粘土・、以下黄褐色粘土 上、灰色粘質土・灰葉色粘質土・マンガ ンを含む褐色土。
14	立会	津島北	BD18		事	本部棟新設設工事(理学部通体設備)	01. 8. 7～8. 8	0.85	造成土中
15	立会	津島北	AN06		上	上部品・ガラス工事	01. 9. 5	2.1	既設工事内
16	立会	津島南	BC15		事	本部棟(共用棟)調査に伴う掘削	01. 9. 7		造成土中
17	立会	津島南	BD14		事	本部棟新設に伴う木造伐採	01. 9. 3～9. 5	0.8～1.1	3ヶ所、うち1ヶ所で瓦礫層
18	立会	津島北	AZ10		理	理学部校舎改修電気設備工事	01. 9. 11, 10. 6～ 10. 10, 02. 2, 20	0.9～1.5	造成土中
19	立会	鹿田	CN34～ CN44	医病	ニギルギーセンタ新宮に伴うバリアフリート	01. 9. 18	0.9～1.0	造成土中	
20	立会	鹿田	CN14～ 28-29-34	医病	ニギルギーセンタ・新宮に伴う電気設備工事	01. 9. 25	1.5～2.5	6ヶ所掘削、GL. 1.1～1.2mで雨漏層、 ち1ヶ所でしまりの良い褐色土を確認	
21	立会	津島北	AZ06	工	上部品ガス漏れ修理工事	01. 9. 27, 10. 4	0.8～1.0	造成土中	
22	立会	津島北	AU11	事	井戸文化財調査研究センター水漏れ調査	01. 10. 5	0.65	造成土中	

番号	種類	調査地区	調査地標	所属	調査名稱	調査期間	掘削深度	備考
23	立会	津島南	AZ07	理	理学部ガス面修理工事	01.10.9	0.8	造成土中
24	立会	津島南	BC14・15	事	本部改修工事に伴う旧防波堤構築移設工事	01.10.11	0.8	造成土中
25	立会	津島南	BB・BC13	事	本部改修工事に伴う機械設備工事	01.11.21	0.95	既設工事内
26	立会	廻田	CN35	医病	品幹壁側共用清工事に伴う電柱設置	01.11.22	0.8~1.7	造成土厚1.3m、以下青灰色粘土質。緑黃色粘土質を複数
27	立会	津島南	BB・BC13	事	本部排水車移設工事	01.11.30, 12.18, 12.19	0.5~1.6	中世層まで掘削
28	立会	津島南	BB14~15	施	施設改修工事に伴う瓦礫削除工事	01.12.3	0.75	明治層まで掘削
29	立会	津島南	BB14~15	打	打設のための板剤	01.12.7	0.4~0.6	既設工事内
30	立会	津島南	BE03・04	学	ブルーム過濾槽修理工事に伴う削削	01.12.14~ 12.27, 02. 1, 8	0.9~1.6	12m所掘削、うち1~2mでGL~1.4mで灰褐色質土層(古代)を確認
31	立会	津島南	BB14	事	本部樹木移植工事	01.12.17	0.85~1.5	12m所掘削、うち4~5mで造成土厚0.45~0.75m。造成土以下4層を確認。中世層まで掘削
32	立会	津島南	BB14	事	本部改修工事に伴う瓦礫削除工事	01.12.17	0.9	既設工事内
33	立会	津島北	AW01・02	施	環境汚染工事外引設置工事	02. 1. 23	1.2	3~4所、うち1~2所で断面確認
34	立会	津島南	BB16	事	本部改修工事に伴う瓦礫削除工事	02. 1. 29	0.95	大于が既設工事内、一部でGL~0.65mで削削・GL~0.75mで古世層青褐色土を確認
35	立会	津島南	曲	曲	曲津岸井畜糞堆肥化改修工事	02. 2. 5	3.0	油圧場、通路、道物とともに確認されず
36	立会	津島北	AZ14	文法	細合研究施設立廻塙整備工事樹木移植	02. 3. 8, 3. 14, 3. 15	0.4~1.1	造成土中
37	立会	廻田	BR-CA43-CA43-55-CA44-CL45-BR-CA55	施	施設教育研究施設埋藏文化財発掘調査に伴う施設改修工事	02. 3. 8~4. 1	1.65	中世層まで掘削、中世の土器が多く出土した地点あり
38	立会	津島北	AZ-BA14~15	文法	細合研究施設改修工事配管	02. 3. 14	0.45~1.0	造成土中
39	立会	津島北	AZ14	文法	細合研究施設改修工事石碑移設	02. 3. 14~3. 15	0.8	造成土中
40	立会	廻田	CO10~27-CO-CQ07-CO-CP14-CQ15	医病	基盤整備外引排水工事	02. 3. 19~3. 27	1.2	大于が造成土中、一部で造成土底面のGL~1.2mで灰黄色砂質土を確認
41	立会	津島北	AY03	教	教育部ボイラー等搬入工事	02. 3. 20	0.7	造成土中
42	立会	津島北	AZ12	理	理学部校舎改修電気設備工事	02. 3. 27	1.35	古世層確認

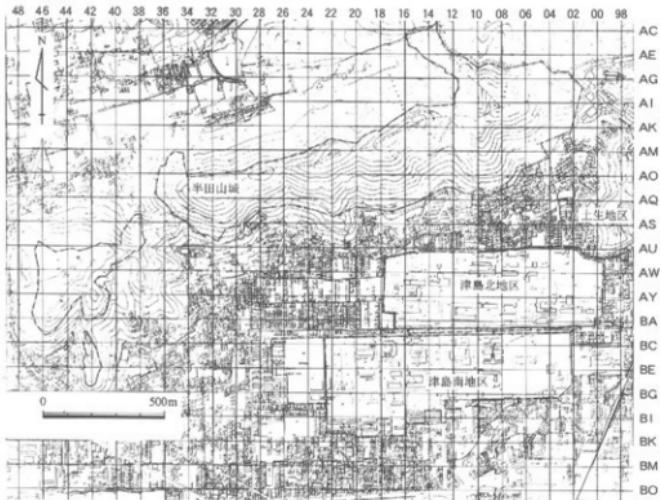


図5 津島地区全体図(縮尺1/20000)

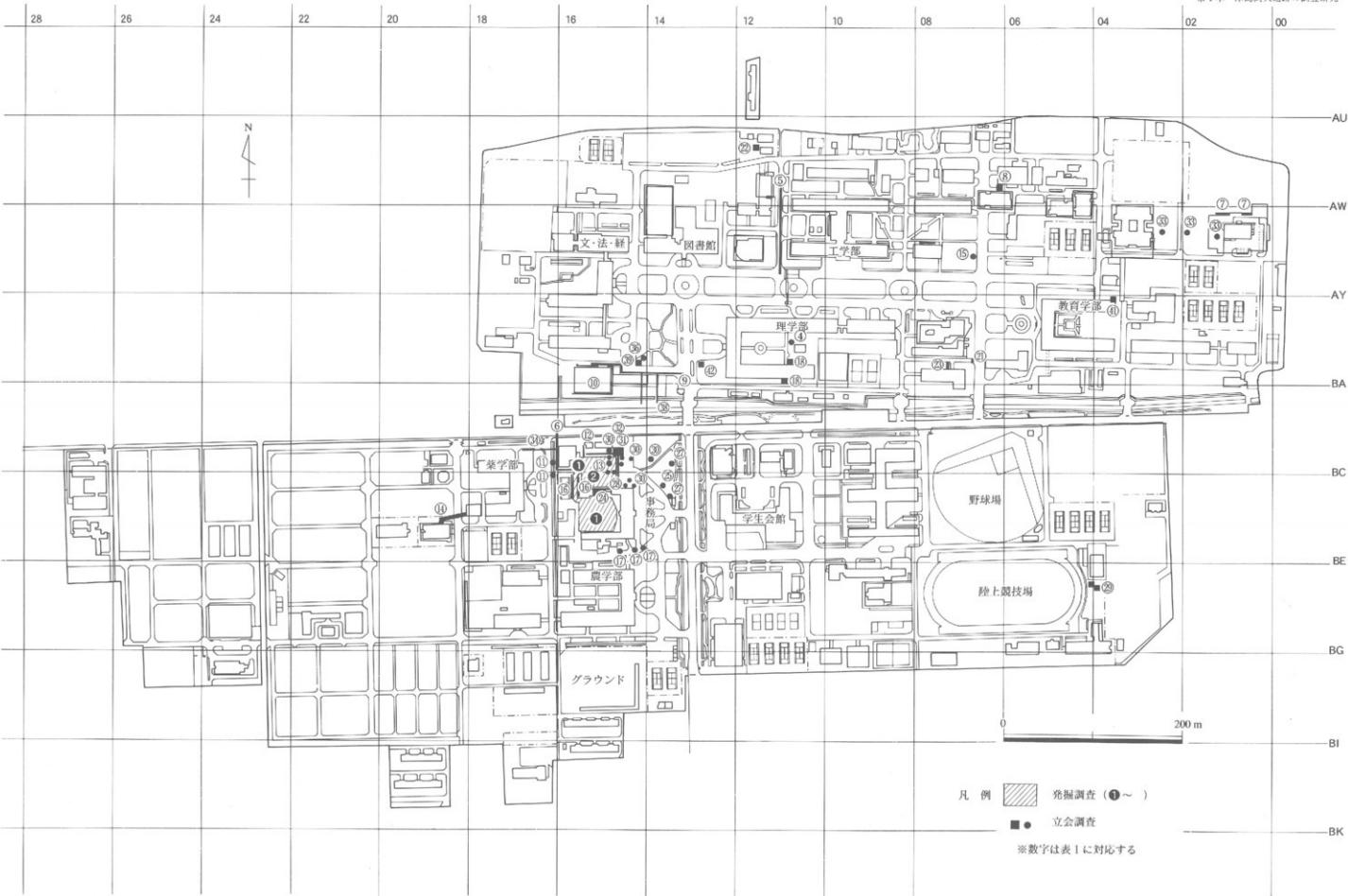


図6 今年度の調査地点 (1) 津島地区 (縮尺1/4000)

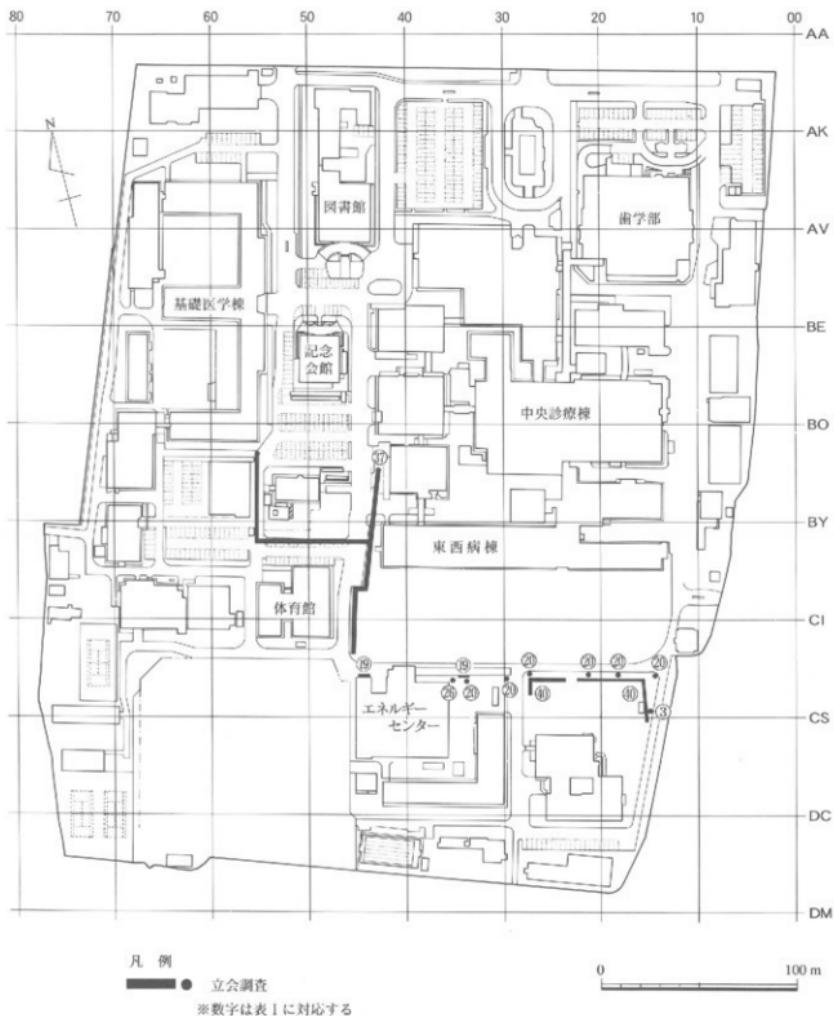


図7 今年度の調査地点(2) 岩田地区 (縮尺1/2500)

第2章 鹿田遺跡の調査研究

近世の櫛について

はじめに

鹿田遺跡第12次調査において、近世の土坑内から漆塗りの櫛が出土した。今回、漆・樹種等について、元興寺文化財研究所による分析の結果を得ることができたので、その報告をかねて、この櫛について若干の検討を行いたい。

a. 櫛について

現存する櫛の大きさは、幅11.3cm、長さ2.7cm、厚さ0.6cmである。歯は根元付近しか残存していないが、合計で86本確認することができる。表面は漆塗りで両面に文様と文字がみられる。表裏とも基本的な文様構成は同じで、菊と思われる花模様と、円を2つ連ねた文様がみられる。ただし、円を2つ連ねた文様の中に、A面では金線で十字と格子状の文様が描かれているのに対して、B面にはススキのような文様が描かれている。また、花模様の下半は鮮明な赤色を帯びており、円を2つ連ねた文様の内側もうっすらと赤みを帯びている。

元興寺文化財研究所の分析によると、漆塗りの構造は、炭粉下地の上に約40μm以下の褐色系の透明な漆層を塗り、黒色の地塗りを行っている。漆の質はあまり良いものではないということである。花模様の部分では黒い地塗りの上に石黄で花模様を描き、10μm以下の朱漆を花模様の下方に塗っている。また、円を2つ連ねた文様部分については、黒い地塗りの上に10μm以下の薄いベンガラ漆を塗り、その上から金蒔絵が行われている。

円を2つ連ねた文様の中には、金線で文字が記されており、岡山大学文学部倉地勝直氏から「よし乃（A面は能）くゑ」と書かれているという指摘を得た。「よしのくえ」の意味については、確かなことは不明であるが、量産品の商品名のようなものではないかということである。

なお、櫛に使用されている木材については分析によって「イスノキ」であることが判明した。イスノキは広葉樹林散孔材で、櫛の材料として一般的に用いられるものである。漆の質があまり良いものでないことを合わせて考えると、この櫛が量産品である可能性を示唆しているよう。

b. 出土状況

櫛は鹿田遺跡第12次調査のB地点から出土した（図9）。共伴する上器がないため詳細な時期決定は困難であるが、近世に属すると思われる土坑内から出土した。この土坑の周辺では他に多数の土坑が検出されており、合計20基みつかっている。一方、この土坑群の南側のA地点には水田が広がっており、一部で畔壁も検出した。北側についても鹿田第9次調査において南側と同様に水田の広がりを確認しており、この一帯に広範な水田域が広がっていたと思われる。

櫛が出土した土坑は、長さ1.5m、幅0.9mの整美

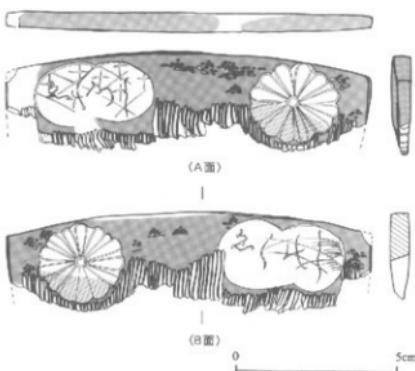


図8 鹿田遺跡第12次調査出土の櫛（縮尺2/3）



写真1 櫛の出土状況

な長方形を呈し、南東にある土坑を切ってつくられている。土坑の深さは0.65mで底部は平坦であり、櫛はその底面から出土した。また、ほぼ同じレベルにおいて炭層が広がっていた。周辺の土坑のうち、櫛出土土坑に切られている土坑については、比較的整美な長方形を呈し底面付近に炭層がみられるなど、櫛が出土した土坑と共通点をもち、同じ性格のものであると考えられる。これらの土坑は櫛の出土や、規模、形の整美さなどから土坑墓の可能性が高いと思われる。

一方、残る他の土坑についてはいずれも大型で、長さが2m以上、深さが1m以上のものが多く、櫛が出土した土坑とはかなり様相が異なる。埋土の状況も考慮すれば、その多くはゴミ穴のような性格のものではないかと思われる。

c.まとめ

以上のように、櫛出土の土坑が墓であるとするなら、それは特定の墓域ではなく、水田域の一角にゴミ穴と思われるような土坑とともにつくられているという、やや特異な埋葬状況を復元することができる。当時はすでに、墓石をもった墓を特定の墓域に造営することがある程度普及していると思われることから、このような状況で埋葬された人物の社会的階層は、決して高くなかったであろう。

しかし、そのような人物の墓に、たとえ漆の質が良くないとしても金蒔絵や朱・ベンガラ漆で美しく描かれた文様をもつ櫛が副葬されているということは、当時、そのような櫛がそれだけ広範に流通し、社会的階層の低い人々まで普及していたことを示していると思われる。「よしのくえ」という文字が量産品の商品名の可能性があるということとも、そのことを裏付けているであろう。

当時の鹿田遺跡は、城下町からほど近い農村部に位置する。鹿田遺跡第12次調査の櫛はそのような地域における、埋葬形態や物資流通の状況を知ることのできる貴重な資料であるといえよう。

(高田)

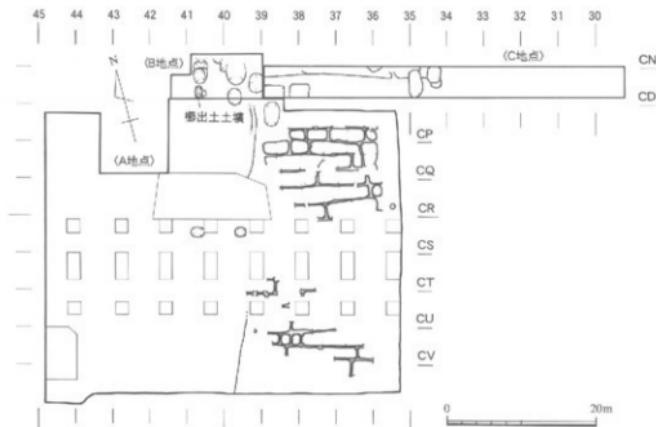


図9 鹿田遺跡第12次調査 近世の遺構全体図（縮尺1/600）



1 漆塗り櫛 (A面)



2 A面文字部分拡大 (1)



3 A面文字部分拡大 (2)



4 A面文字部分拡大 (3)



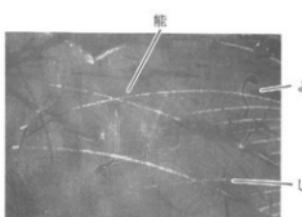
5 漆塗り櫛 (B面)



6 B面文字部分拡大 (1)



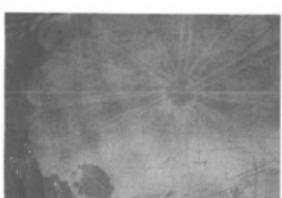
7 B面文字部分拡大 (2)



8 B面文字部分拡大 (3)



9 ①の拡大



10 ②の拡大

写真2 文字の残存状況 (1~10)

第3章 調査資料の整理・研究と展示・公開

第1節 調査資料の整理・研究

1. 調査資料の整理・分析

はじめに

2001年度に行った整理・研究・分析（表2）は内容、時代とも多岐にわたっており、整理途上において様々な問題点が浮き彫りとなった。特に、津島岡大遺跡では数少ない弥生時代後期前葉・古墳時代初頭の土器の分析から、同時期の土器様相や搬入土器の存在、分銅形土製品を含む土器類の廃棄形態の問題などが注目された。また、弥生時代前期水田遺構からは耕作形態に対する疑問を見いだし、縄文時代後期の石包丁状石器の分析もあわせて、縄文時代と弥生時代前期の稻作の問題にも研究が及んだ。こうした成果は、2002年度に刊行する報告書の考察に反映され、問題点の分析・指摘などが各報告書担当者によってなされている。ここでは、それらを繰り返すことは避け、遺跡の景観や生業の復元を目指す上で、本センターが積極的に取り組んでいる自然科学的分析研究（植物珪酸体分析・花粉分析・樹種同定・年代測定・種子同定など）の一部をあげた。縄文時代後期あるいは突帯文の段階に利用された貯蔵穴から出土した種子の選別と縄文時代後期の河道に打ち込まれた杭群の洗浄に関する研究成果を述べる。

a. 縄文時代の種子

津島岡大遺跡第15次調査¹⁰⁾では、微高地に炉などの集落関連遺構がひろがり、その縁辺を流れる河道の岸辺に29基の貯蔵穴が構築されている。貯蔵穴は、縄文時代後期と突帯文段階の2段階のものが確認され、多くの堅果類が貯蔵された状態で調査された。本センターでは、貯蔵穴内の土壤を探集し、水洗した後、堅果類についてはアルコール漬けにし、小形の種子に関しては乾燥後選別を行っている。

出土種子の量は膨大であり、現在もその種類は同定途上にあるため、十分な分析は行えないが、いくつかの注目点を指摘しておく。1点目は出土状態である。堅果類が貯蔵された状態の貯蔵穴からは、小形種子も多く出土する傾向が認められる。量的に多いだけでなく種類も豊富である。一方、埋土の状況から貯蔵穴内が開放状態であったと考えられる場合は、種子の出土量は極めて少量となる傾向が見られる。また、確実に流入土であると判



写真3 種子の選別作業



写真4 津島岡大遺跡出土種子
(上: エゴノキ 下: ヤマゴボウ)



断される土層に関しても同様の傾向を見ることができる。これは、貯蔵穴が利用されている状況下において、堅果類以外の植物が故意に入れられた可能性を示すデータと捉えられる。2点目はその種類に関してである。今回の分析から、これまでに津島岡大遺跡で見つかっていたエゴノキ・カジノキ・ノブドウ・ナワシロイチゴ・ヤマゴボウ・ニワトコなどの他に、ハコベ類などの植物が新たに検出された。また、利用可能な植物が多いことも改めて確認することができた。遺構・遺物に関する他の縄文遺跡との比較に、こうした資料の分析も加えて、貯蔵穴の利用形態・自然環境の復元・縄文時代の植物食などの問題に取り組む必要があろう。

今後、種子にとどまらず、遺跡の残される植物遺体に関して、多くの情報を含んだ良好な資料として分析を進めていきたい。

(山本)

b. 縄文時代の杭について

津島岡大遺跡第23次調査では、縄文時代後期段階にあたる河道の縁辺などに打ち込まれた杭群を検出している^①。今年度はそれら杭群の資料を含めた第23次調査出土遺物を洗浄した。詳細な内容については本報告に譲るが、現段階における若干の所見を述べる。

写真5は、その縄文後期段階の河道から出土した杭である。残存する長さ68.2cm、直径3.2cmの資料で、先端が長さ24.3cmにわたって焼け焦げている様子がはっきりと見てとれる。縄文時代後期段階の杭は約180本検出しているが、2001年度の概要でも述べられているように、そのほとんどに焼かれた痕跡が確認できる。また、ここで注意されるのは、先端の加工痕が明瞭でない点である。この河道のさらに上層に存在した弥生時代前期の堰に使用されていた杭にはかなり明瞭な加工痕が密に見られたことと比較すると、非常に対照的である。

なお、この縄文後期段階の杭群のうちの1本の放射性炭素年代測定を御古環境研究所に依頼したところ、B.C.1900年という数値が出された。これは河道出土土器から考えられた縄文時代後期後半の時期とおおむね合致している。以下に参考数値を挙げる。



写真5 先端を焼いた痕跡

(忽那)

試料名	¹⁴ C 年代 (年 BP)	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	補正 ¹⁴ C 年代 (年 BP)	曆年代 (西暦)	測定 No Beta-
No 1	3650±70	-30.6	3560±70	交差 : cal BC1900 1σ : cal BC1970~1770 2σ : cal BC2120~2090, 2050~1720	146335

註

- (1) 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター 『岡山大学構内遺跡調査研究年報』13 pp.12~20 1996年
(2) 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター 『岡山大学構内遺跡調査研究年報』18 pp. 8~18 2001年

表2 2001年度室 内作業一覧

調査 次 数	作業内容
津島岡大遺跡第23次調査 (文化科学系総合研究棟)	遺物の洗浄
津島岡大遺跡第17次調査 (環境理工学部校舎1期)	遺物の複合・復元
津島岡大遺跡第21次調査 (工学部エレベーター)	タ
津島岡大遺跡第22次調査 (環境理工学部校舎II期)	タ
津島岡大遺跡第15次調査 (サテライトベンチャービジネスラボラトリ―)	種子選別
津島岡大遺跡第10次調査 (保健管理センター)	遺物実測・遺構の検討
津島岡大遺跡第12次調査 (附洞開削)	タ

2. 出土資料の保存処理

はじめに

今年度の保存処理作業は、木製品について本センターにおけるPEG処理と、外部委託処理を行った。以下では、主要な遺物の処理前の状態と、作業の概要について述べる。

a. 主要な遺物の概要と処理前の状態

処理を行ったもののうち、注目される2点の遺物について概要と処理前の状態を述べる。なお、遺物についての記述は現段階に置ける暫定的なものであるため、詳細については本報告を参照されたい。

鹿田遺跡第7次調査出土猿形木製品（写真6）鎌倉時代末～室町時代の溝から出土した、高さ9cm程度の小形品である。背中を丸めた姿で鳥帽子をかぶり、顔面にあたる部分と、やや突出させて表現した臀部を赤色に塗彩することから、猿回しの猿を表現したものと考えられる。

彩色の残存状態は良好で、鳥帽子、顔面、臀部、下端の4ヶ所に認められる。

鳥帽子は上端部に赤色がわずかにみられるが、それより下は幅5～7mmごとに

写真6 処理前の猿形木製品

黒色・赤色を交互にバランスよく配している。両側面と、前面・背面も連続して彩色して

おり、多方向からの視点を意識していたことをうかがわせる。顔面は赤色で彩り、目を幅

1mmほどの黒色線からなる直径3mmの不整円で2個表現する。円の内部は塗彩されて

いなかったようである。臀部は、表面のみ残存しており、かなり褪色しているが、長さ4

mm、幅2mmの範囲で赤色が確認できる。また、下端部は幅7mmの範囲で、全周を黒

色で彩色している。

板を削りだして製作したとみられるが、全体に細かな単位で加工痕が残っており、側面のみでなく幅の狭い前面・背面にも丁寧な仕上げが施され、幅1cmにも満たない顔面を立体的に削りだしている点も精緻なつくりの一端を示している。表面の加工のほかは、腕にあたる部分を貫通する径4mmの穴と、底面に穿たれた径3mmの穴がみられる。前者は回転するような可動式の腕の存在が、後者は固定用のものだった可能性が考えられる。

鹿田遺跡9次調査出土木簡（図10）鎌倉時代後半～近世の溝から出土した、杭に文字を墨書きしている資料である。接合する身の2点と、接合しない杭先1点からなり、復元推定長84cm、径4cmを測る。杭下端から30cmの部分より上を約3cmの幅で平坦に削っている。削りこみ方が粗く、最後の文字も狭い範囲に無理に押し込んだような書き方をしていることから、粗雑な印象を受ける。

資料を実見した岡山大学文学部久野修義教授によると、文字の内容は、香夢童子の供養を行いその功德をさらに衆生に及ぼし悉皆成仏を願うものであり、仏教的な供養碑と考えられ、書体から室町時代後半のものとみられるという（山本・久野2000）。

杭は中世の井戸の掘方内から出土しているが、その井戸を破壊したのちにつくられた幅6mほどの溝に伴うものと考えられる。杭はその溝の縁にあたる部分に位置し、溝から北東側には居住域が広がることから、集落の角を意識して立てられた可能性が指摘されてい



b. 今年度の保存処理作業

PEG 保存処理 昨年度に引きつづき、第5期の保存処理を継続中である（表3）^④。第5期の保存処理では、津島岡大3次（男子学生寮新営）・9次（生体機能応用工学科棟）・10次（保健管理センター）・12次（附属図書館）・13次（福利厚生施設北棟）調査の出土木器を投入している。主な遺物は、古代の杭・古墳時代の井戸枠などである。

外部への委託処理 鹿田遺跡第9次～12次調査で出土した文字・漆・彩色の残存状況が良好で PEG 含浸以外の保存処理方法が適当と考えられた資料について、2001年8月8日に財団法人元興寺文化財研究所に保存処理を依頼した（表4）。

(忽那)

表3 第5期木器保存処理工程
(アルコール・キシレン樹脂法による保存処理)

遺物	調査次数	種類	大きさ (mm)	出土遺構	時期	状態
木筒	鹿田9次	板状	143×58×6 mm	池状遺構	平安時代末	文字残存
木筒	鹿田9次	杭状	840×40×35mm	溝	室町時代後半	文字残存
木筒	鹿田11次	板状	425×65×7 mm	溝	室町時代	文字残存
猿形木製品	鹿田7次	製品	92×26×14mm	溝	鎌倉末～室町時代	彩色

(凍結乾燥法による保存処理)

遺物	調査次数	種類	大きさ (mm)	出土遺構	時期	状態
漆塗り楕	鹿田9次	楕	150×70×50mm	土坑	中世	彩色
漆塗り楕	鹿田12次	楕	110×30mm	土坑	近世	彩色

引用・参考文献

- 小林吉樹『岡山大学構内遺跡調査研究年報』16 pp.19-23 2000年
宮川 敦(編)『岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報』第23号 2000年
山本悦久・久野修義「岡山・鹿田遺跡」『木簡研究』第22号 pp.203-205 2000年 木簡研究会

註

- (1) 既往の本センターにおけるPEG含浸による保存処理と対象遺物の調査次数は、以下の通りである。

表5 2000年度以前の木器処理工程

処理時期	期間	処理 次 数
第1期	1992年7月～1993年11月	鹿田遺跡1次(附属病院外来診療棟)・2次(NMR-CT室)
第2期	1994年6月～1996年8月	鹿田遺跡3次(医学部短期大学校舎木体)・4次(医学部短期大学校舎周辺配管)・5次(医学部管理棟)・津島岡大3次(男子学生寮)・6次(生物応用工学科棟)・5次(大学院自然科学研究科棟)
第3期	1996年12月～1999年6月	鹿田遺跡3次(医学部短期大学校共同溝)・津島岡大3次・6次
第4期	1999年7月～2000年10月	鹿田遺跡3次・4次・津島岡大3次

3. 出土資料の科学分析

(1) 津島岡大遺跡第19次調査の河道内堆積物の粒度組成分析

はじめに

1998年に発掘調査を行った津島岡大遺跡第19次調査地点では、調査区を東西に貫流する弥生時代前期～中期の河道を検出した。河道の上半部は粗い砂粒の堆積物が厚く堆積し、下半部では粘質土層と粗砂層が互層状に堆積していた。また、河道の土層観察用断面土手の最上層で弥生時代中期中葉の甕、最深部で弥生時代前期新段階の壺口縁部を採集し、河道が埋没するまでの時間幅を押さえることができた。

a. 分析にいたる経緯と問題意識

河道の堆積物は発掘調査時に肉眼で観察し、土質、土色、含有物、砂粒の大きさなどの基準で分類した。その際、砂質あるいは非常に粗い砂層が上半部に分厚く堆積し、河道を埋没させていることが観察された。このような堆積状況が看取された場合、経験的に洪水による堆積と判断することが多い。しかし、経験的に洪水砂と判断してきたものが鈎物学的にどのようなものなのか、砂粒の粒径の比率を調べることで他の堆積環境の堆積物と分離が可能なのかという疑問が生じた。洪水は人間の生活に多大な影響を与える災害である。発掘による調査・記録は、その当時の人文活動の痕跡から歴史を復原するための資料となる。洪水のような災害が起こっているならば、それを経験的ではなく、客観的な方法で検証できないであろうか、との問題意識を持つにいたった。また、河道の埋没が洪水によるものなら、岡山平野において高い流動性を示す集落の移動を説明する要因の一つになることも予想された。そこで今回河道の堆積物の粒度組成分析を行い、河道が埋没した要因を堆積物自体から探ろうと試みたのである。分析の方法として粒度分析を行うこととしたのは、砂粒の粒度がその運動・沈積の過程を反映しているためであり、粒度分布の解析によって堆積過程を解明し、堆積環境を復原するための情報を得ることができると思ったからである。

b. 分析の方法

分析は発掘調査時に肉眼で観察した分層に基づき、特徴的な堆積状況を示す堆積単位と、比較資料として河道と異なる地點において採取した土壤サンプルを用いた。分析はビベット法で行い、砂サイズの部分は無い分けによって、泥サイズの部分は沈降法によって分離した。資料の分析は協同組合岡山県土壤試験センターで行い、岡

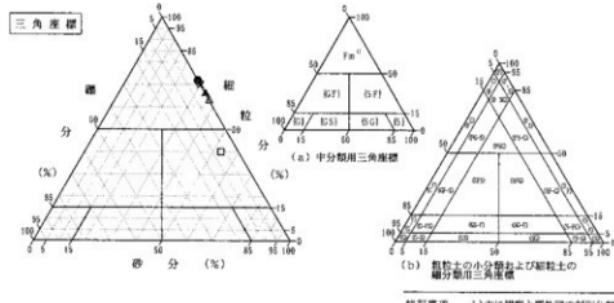


図11 三角座標による各資料の分類

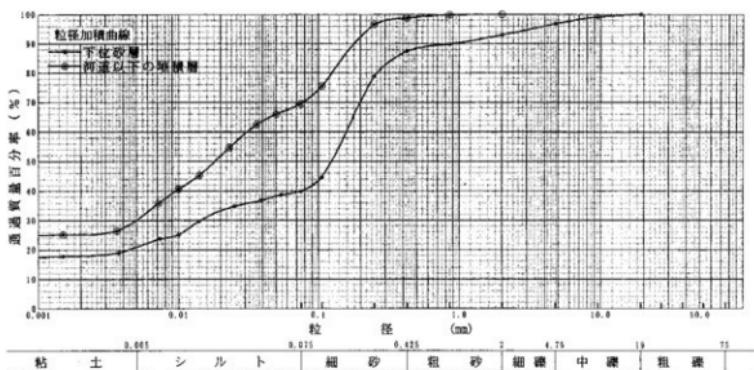


図12 通過質量百分率と粒度との関係を示した積算曲線

山大学大学院自然科学研究科鈴木茂之助教授に分析した資料の評価を依頼した。

c. 分析結果

分析の結果、砂粒の粒度と通過質量百分率との関係を示した積算曲線が得られ、これから各資料の中央粒径値、淘汰度、歪度を求めた。その結果、第19次調査の資料は淘法や筋い分けをほとんど受けていない堆積物であることを示した。これは洪水等の突発的な流れによってもたらされた堆積物であると評価できる。詳細は報告書の記載（岡山大学埋蔵文化財調査研究センター「津島岡人遺跡」12岡山大学構内遺跡発掘調査報告第17報、2003年）を参照いただきたい。

d. 旭川流域における弥生時代前期～中期の遺跡にみられる河道の状況

津島岡大遺跡は中国山地に源を発し、岡山平野を南流して瀬戸内海に注ぎ込む旭川西岸に位置している。そこで岡山平野の旭川水系に属する該期の遺跡の状況を整理したところ、弥生時代前期～中期にそれまで機能していた小河川の多くが急速に埋没していることが明らかになった。したがって、弥生時代前期～中期の期間に旭川流域において広範な範囲に及ぶ洪水が起こったことが推測される。岡山平野における当該期の弥生時代集落の流動性を考察するうえで、このような自然災害や環境の変化が要因の一つになっていたことも考慮されるところである。他地域の状況を比較することにより、岡山平野の弥生時代集落の特質を抽出することも可能となろう。

おわりに

今回の分析は洪水の痕跡を客観的なデータで示す方法を模索した基礎的な分析作業である。このような作業を積み重ね、洪水等の災害の規模や広がりを捉えることができれば、人間と災害との関わりを考察するうえで基礎的な資料を提供することとなる。今後は分析資料数の増加や、比較対象として異なる堆積環境の分析を進め、分析の確度を高めることが必要である。

(野崎)

(2) 津島岡大遺跡第23次調査出土木材の樹種同定について

はじめに

本センターでは、津島岡大遺跡・鹿山遺跡から頻繁に出土する木製品及び植物遺存体の調査・研究及び保存に設立以来取り組んできた。なかでも、樹種同定や種子選別・同定、花粉分析など多岐にわたる自然科学的分析をもとにした植生復元研究は、長年の資料の蓄積とともに具体相が明らかとなりつつあり、大きな成果を上げている。今年度は、その研究の一環として、近年さらに増加している資料の効率的な整理と、発掘現場において迅速に良好な状態の樹種同定に使用する資料を得る技術の修得を目的に、独立行政法人森林総合研究所において能城修一氏のご指導のもと、樹種同定に必要な基本的技術修得のための研修を行った。ここではその際に試料として用いた津島岡大遺跡第23次調査出土の河道内出土流木について現在得られている知見並に調査員が発掘現場でプレバラートを作製するために必要な作業の内容と、その利点について述べたい。

a. 津島岡大遺跡第23次調査出土資料について

今回の試料として使用した16点の資料は、津島岡大遺跡第23次調査の縄文後期段階の河道底から多数出土した流木のうちの一部である^⑩。資料の切片採取・プレバラート作製は筆者が行い、同定は能城氏の実見による。なお、以下で述べるデータはあくまで暫定的なものであり、正式な分析は本報告に代えるものとする。

表6を見ると、16点の資料のうち、約7割の11点をアカガシ・アカガシ亜属6点、エノキ・エノキ亜属5点が占め、ムクノキ3点が約2割でそれに続く。すでに報告されている第3次調査・第5次調査の同時期の河道出土自然木と比較してみると^⑪、エノキ亜属がやや目立つ点は類似しているが、これまで数%にとどまっているアカガシ・アカガシ亜属の割合が高い点が注目される。第23次調査地点は、第3次・第5次調査地点から800~400m離れていることから、横生する場所の違いも起因していると考えられるが、河道内に打ちこまれていた杭群の存在もあり、関連が注目される。

今回の分析では、縄文時代後期における植生の一端が新たに明らかとなった。同時に採取している花粉分析、他の木材の樹種同定や種子の分析もあわせ、総合的な検討を今後加えていく予定である。

b. 出土資料のプレバラート作製

まず出土資料の残存状況が良好な面を鑑定し、木口・板目・柾目との3面それぞれについて片刃カミソリの替刃で透ける程度の薄さで均等に切り剥ぎ、水を張ったシャーレに浸しながら離して入れていく。何枚か採取したも

表6 津島岡大遺跡第23次調査出土の自然木の樹種

標品番号	樹種名	製品名	サンプルの長さ(cm)	地区	遺構	時代
OKUF-619	アカガシ	自然木	20		第23次調査	河床 縄文後期
OKUF-620	エノキ	自然木	15.5		第23次調査	河床 縄文後期
OKUF-621	ムクノキ属	自然木	25		第23次調査	河床 縄文後期
OKUF-622	ケヤキ	自然木	24		第23次調査	河床 縄文後期
OKUF-623	アカガシ(根?)	自然木	15		第23次調査	河床 縄文後期
OKUF-624	エノキ属	自然木	25		第23次調査	河床 縄文後期
OKUF-625	アカガシ重属	自然木	26		第23次調査	河床 縄文後期
OKUF-626	エノキ属	自然木	15		第23次調査	河床 縄文後期
OKUF-627	アカガシ中属	自然木	40		第23次調査	河床 縄文後期
OKUF-628	カシ	自然木	11.5		第23次調査	河床 縄文後期
OKUF-629	エノキ	自然木	14		第23次調査	河床 縄文後期
OKUF-630	エノキ	自然木	7		第23次調査	河床 縄文後期
OKUF-631	アカガシ重属	自然木	14		第23次調査	河床 縄文後期
OKUF-632	アカガシ重属	自然木	12.5		第23次調査	河床 縄文後期
OKUF-633	ムクノキ	自然木	15		第23次調査	河床 縄文後期
OKUF-634	ムクノキ	自然木	23		第23次調査	河床 縄文後期

ののうちから、3面それぞれについてできるだけ状態の良いものを選び、切片が移動しやすいようにスライドグラスの表面を濡らしてからピンセットで水の中の切片をつまみ、スライドグラスの上を滑らせるように載せる。最後にガムクローラルを試料表面に十分に塗布し、カバーガラスで封入する。封入後、しばらく乾燥させてガムクローラルが固定した状態で完成となる。こうして作製した出土資料のプレパラートを顕微鏡で観察し、木材標本と対照させることで樹種の同定が可能となるのである。



写真7 切片の採取状況

c. 利点と課題

こうした、発掘調査員が遺跡出土資料のプレパラート作製方法を習得する利点について考えてみよう。

発見時の迅速な対応が可能 木材をはじめとした植物遺存体は、発掘され外気に触れた時点から水分が奪われ劣化が進んでいく。現在でも、発掘現場では可能な限り乾燥しないよう努めているが、やはり限界がある感は否めない。劣化のため、組織の観察が困難で樹種同定に影響が出る場合もある。プレパラート作製を現場で行い、出土して間もない良好な状態で切片を採取することでこの問題には対処できる。また、木枠をもつ井戸が多い鹿田遺跡などでは、大まかな樹種が判明することで、木の性質に合わせた現場での保存方法をとるなど、状況に応じて柔軟に対処することができると考えられる。

切片採取の効率化 また、大量の遺物について樹種同定を依頼する場合に、プレパラート作製のため同定を依頼した研究者に直接来所して切片を採取してもらうか、あるいはこちらで切片を採取できるほどの大きさのブロックに切り取って送るか、直接資料を持ち込むかのいずれかであった。前者の場合は、遺物の量が多い場合、後二者は採取する箇所の選択と形状を損なう割合が高くなる点に問題があった。今後は、そのような場合でも本センターでプレパラートを作製またはブロックで切り取って送る方法で対処することができる。

課題 プレパラートの作製作業のうえで重要なのは、木口・板目・柾目の3面が現われている面を正確に、なおかつ顕微鏡で観察可能な薄さで切りとることにある。普段切片を採取する機会が少ない調査員がプレパラートを作製する際には、特にこの2点に注意しなければならない。

上記のような利点を生かすには、観察に適う切片を採取することができ、また報告書等で使用する写真に耐える状態のプレパラートを作製できる技術を維持していくことが必要であろう。

おわりに

今回の独立行政法人森林総合研究所における2002年2月4日～8日にわたる研修にあたっては、同研究所木材特性研究領域チーム長・能城修一氏をはじめ木材特性研究領域組織材質研究室の方々、及び東村山市遺跡調査会佐々木由香氏から数々のご便宜とご教示、多くのご指導を賜った。文末ながら、記して感謝の意とさせていただきます。

(忽那)

註

- (1) 調査の概要については、「岡山大学構内道路調査研究年報」18 (pp.8-18、2001年、岡山大学埋蔵文化財調査研究センター) による。
- (2) 能城修一「岡山大学津島地区から出土した木材化石の樹種」『津島両大道路6』岡山大学構内道路発掘調査報告第9冊 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター pp.184-203 1995年

第2節 調査成果の展示・公開

1. 成果速報展の概要と傾向

a. 展示会の概要

2001年10月20日から11月2日まで、第5回目となる岡山大学キャンパス発掘成果展を、前年に引き続き開催した。前回は出土品の展示が主であったが、今年は「のぞいてみよう！埋文センター」と題し、普段目に触れる機会の少ない、センターにおける多様な活動を広く公開し、埋蔵文化財およびその調査研究活動に対する理解を広めることを目的とした。

会場は、常設の展示室に加えて、木器処理室、収蔵庫、整理作業室も公開し、発掘後の各種の活動がわかるよう工夫した。展示内容は、木製品の保存処理施設における保存方法の説明と木製品の展示、収蔵庫における遺物の保管状況の展示とビデオ上映、整理作業室における遺物実測の実演、赤外線カメラを用いた墨書の判読、顕微鏡を用いた種子や石器の観察、常設展示室における最近の調査研究成果を含めた出土品の展示であり、適宜職員が解説にあたった。このほか、申し込み制で土器の接合や洗浄といった作業の体験コースも設けた。

広報活動としては、学内外へのピラの送付・前年の見学者への案内函の送付・ホームページやマスコミ関係を通じての宣伝を行った。また、開催期間が重なる本学附属図書館における池田家文庫等貴重資料展との連携をはかり、今回の展示会が本学の文化的な普及活動の一環となるように努めた。

b. 開催結果

見学者の人数と内訳 見学者は、合計で317名であった。昨年の展示会が188名であったのに比べて、大幅な見学者数の増加となった。実施したアンケートの回収数は244枚で、回収率は76.9%であった。前年の回収率(51%)よりも高い数字となり、関心の高さをうかがわせた。また、見学者のうち18名が体験コースに參加した。

今回は、学外からの見学者の多いことが特徴的である(図13)。学外見学者の内訳は、一般の方が最も多く、郷土史のクラブや、高校関係がそれについだ。前年の展示会の見学者が、今年も来場する場合も目立った。

見学者の年齢層については10代と20代の学生が最も多く、ついで50代が多かった。10代と20代の学生が多い要

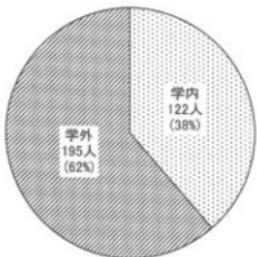


図13 見学者の学内・学外の比率

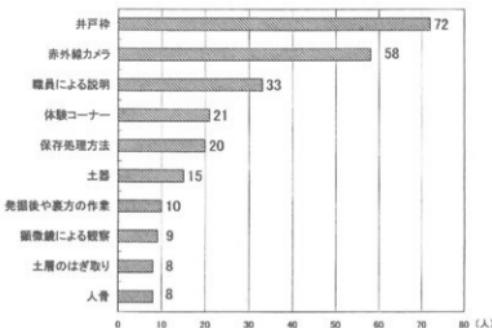


図14 見学者の印象に残ったもの



写真8 井戸枠の説明風景



写真9 土器接合の体験コーナー

因は、大学や高校の授業の一環で見学が行われたことによる。教育活動における利用も、今回の大きな特色といえる。

見学者の印象に残ったもの　見学者の印象に残ったもののうち、上位10項目は、図14のようになる。大きな井戸枠や、赤外線カメラによる肉眼では見えない文字の判読といった、新鮮な驚きのある展示が上位を占めるとともに、保存処理や発掘後の作業といった普段見る機会の少ない活動への興味がうかがえた。体験コースの参加者からは、「もっと土器の接合をしてみたい」といった意見がよせられ、埋蔵文化財にかかる活動への高い関心がうかがえた。また、職員による解説も昨年同様好評であった。職員と見学者の交流が、展示会の大きな魅力の一つとなっていることがわかる。

見学者からの感想と意見（カッコ内は人数）「地道で大変な仕事」（27）、「がんばってください」（11）といった、センターの活動に対する理解と励ましの声や、「また来たい、継続的に開催してほしい」（26）、「施設の充実を希望」（15）といった、展示会の継続的な開催と、より充実した環境での資料の利活用に対する要望が多数よせられた。

c.まとめ

今回で5回目となる発掘成果展は、予想を上回る見学者に恵まれた。同時期に開催された池田家文庫等貴重資料展との協力も、見学者数の増加の一因である。展示会が本学の文化的普及活動の一環となったものといえる。学外からの増加や、リピーターの多さ、継続的な開催への要望の強さは、センターに対する地域社会の関心の高さと、その業務が地域社会に着実に根付きつつあることを示している。

大学や高校の授業で展示会が利用されたことも、今回の特色である。また、展示会をきっかけに、期間終了後も中学校や高校の授業におけるセンターの利用がみられた。教育活動の中で、生き生きとした学習のできる魅力ある機関として、センターが評価されたためであるといえるだろう。

要望の強かった継続的な開催や、環境の充実に努めることで、学内はもとより、教育現場や地域社会の関心に応えていくことができると考えられる。

(光本)

2. 考古資料展示の方法と実践

a. 考古資料展示室建設の契機と目的

当センターは、およそ1年にわたり2002年4月に開設予定の岡山大学考古資料展示室（以下、考古資料展示室とする。）の開設準備に岡山大学文学部考古学講座と共にかかわってきた。この考古資料展示室は、考古学講座が所蔵している貴重な遺物の収蔵および展示を行っていた、文法経説義棟北の旧考古展示資料室が使用できなくなったため、その代替施設として計画されたものである。新規に展示施設を設けるにあたり、収蔵機能は収蔵庫へ分離し、展示施設では考古学講座の遺物にあわせて埋蔵文化財調査研究センターの所蔵の資料、また他学部から提供を受けた種子鑑定や石材の分析などの成果を合わせて展示し、展示・公開の役割をより強調する方針がとられた。このことには、これまでにも重視されてきた教育・研究への活用のほか、学内における他分野の学部と連携をとり、さらに地域に開かれた大学として地域の人々に對して広く収蔵資料について公開するという、従来よりもさらに幅広い意義を持たせるねらいがこめられている。

以下では展示室の仕様と方法、および展示内容の概要について述べる。

b. 展示施設の仕様

考古資料展示室は、津島岡大遺跡第23次調査地に建設された地上6階（5、6階は放送大学である）の建物である文化科学系総合研究棟1階奥に位置し、床面積147m²を占める。天井にはライト・ウォッシャ用の電気レールを基盤状に敷設している。展示ケースとしては、壁際には部屋のコーナーに沿った形でL字に折れる長さ12.4mの壁面ケースを1基、島ケースについては全て移動式のもの3種類10台を設置している^③。このほか、橋塚墳丘墓の弧形石レプリカ、貯蔵穴底のアンペラ（福み物）と陶棺、大形の井戸枠は、それぞれの大きさに合わせ、重量に耐えられるものを特注している。解説パネルは、直接壁にビスで固定する方法と、大形のものはビアノ線とフックで吊り下げて固定する方法をとっている。遺物の照明については天井に可変配光スポットライト、ウォールウォッシャの2種類のライトを配し、展示ケース内はそれぞれケース内についている蛍光灯により光をあてている。このほか、展示遺物や遺跡の関連情報を検索するためのタッチパネル式のパソコンを1台設置している。パソコン内には、展示遺物・遺跡の関連データが入力されており、画面に触ることにより簡単に来館者が操作できるようになっている。

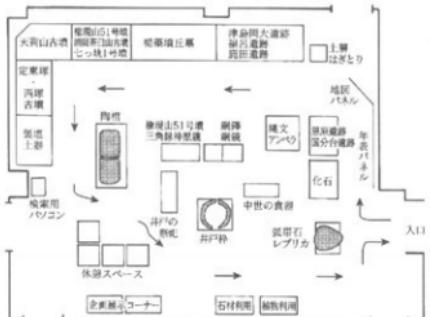


図15 考古資料展示室展示配置概略図

c. 展示構成

まず、冒頭に大形の年表および遺跡地図のパネルを設置し、各遺跡の位置と時代の関係を把握してから実際の展示を観覧する順路となっている。考古学講座のもつ旧石器・弥生・古墳時代の資料と、埋蔵文化財調査研究センターのもつ福井・津島岡大・鹿田遺跡の縄文・弥生・中世の資料をコーナー別に交互に配置し、旧石器時代から中世までを通じて概観できる構成をとっている。終盤のコーナーでは、研究室の有する豊富な石器資料をもとにした石材の利用、津島岡大遺跡から多数出土する植物資料を取りあげた植物の利用など、考古学以外の分野との

関連を重視した展示も備えている。とくに石材利用のコーナーでは、理学部から写真図版の提供を受け、使用する石材の特徴などについて解説が付されている。

なお、展示ケース2つ分を企画展示コーナーとし、速報展示等の小規模な展示に対応できるスペースを設けている。

d. 遺物展示と解説文

大半の遺物はケース内に収められており、湿度コントロールには調湿剤（アートソープ）を使用し、また楯築墳丘墓・都月坂1号墳出土の特殊器台・特殊器台形埴輪の下には免震台を設置している。展示遺物のうち、楯築墳丘墓の弧帶石レプリカ、吉原3号墳の陶棺、鹿田遺跡の大型井戸枠などについては、ケースに收めずパーテイションで周囲を囲うのみにとどめ、間近で観察できるようになっている。

解説文については、中学生が読んで理解できる程度の内容としている。各コーナーの先頭に置かれるメインパネルは、100~160字余りの概要と、160~200字程度のやや詳細な解説、最後に英文要旨という3段構成をとっている。簡単に理解したい来館者には、各コーナーの主旨を把握できる概要を、さらに深く理解したい来館者は詳細な解説を、海外からの来館者には英文要旨を、というように幅広い層に対応できるよう工夫がなされている。また、解説文の字体にはゴシックを用い、やや離れた位置からでも判読ができるよう配慮している。また、解説文および遺物のキャプションには、それぞれ英文を付した。



写真10 壁面ケースの展示状況

e. 利活用の試みと今後の展望

今後は、総合大学に存在する点を生かし、考古学のみではなく理学部など自然科学系、あるいは教育学部の社会科など、学内の他分野の講義等でも有効に活用していくような方向性が望まれる。また、地域の小・中・高の生徒、あるいは社会人による生涯学習活動の場のひとつとして積極的な利用を促したい。そのためには、近隣地域や学内での周知により一層努めていくことが必要であろう。

(忽那)

注

(1) 窓ケースは、内部照明を備えた複数窓のガラスケース2種類（ガラスケース上部が斜めになっているものとそうでないもの）と、段を重ねることができる高さ約2mほどの5面ガラスケースがある。5面ガラスケースには内部照明はついていない。

第3節 2001年度調査研究員の個別研究活動

1. 科学研究費採択状況

- 山本悦世：平成13年度科学研究費（基盤研究C）「縄文時代の景観復元と生業に関する実証的研究」
岩崎志保：平成13年度科学研究費（基盤研究C）「縄文時代の景観復元と生業に関する実証的研究」（研究分担者）
高田浩司：平成13年度科学研究費（奨励研究A）「弥生時代銅器と古墳時代銅器の比較研究」
野崎貴博：平成13年度科学研究費（奨励研究A）「古墳時代の棺制度の考古学的研究」
横田美香：平成13年度科学研究費（基盤研究C）「縄文時代の景観復元と生業に関する実証的研究」（研究分担者）

2. 資料収集実態調査

- 山本悦世：縄文土器の調査（京都市）、京都大学総合博物館の実態調査
岩崎志保：弥生時代木製品の資料調査（鳥取県）
忽那敬三：古墳出土動物形土製品の調査（岡山県）、古墳出土形象埴輪の調査（大阪府、京都府）
高田浩司：弥生時代の石器、銅器の資料調査（岡山県、香川県、鳥取県、京都府、奈良県、東京都、千葉県）
野崎貴博：平成13年度科学研究費（奨励研究A）「古墳時代の棺制度の考古学的研究」に関する資料調査（岡山県、鳥取県、京都府、大阪府、大分県）
光本 順：古墳出土副葬品の実査（大阪府）、古墳の踏査（京都府、大阪府、兵庫県）
横田美香：縄文土器の調査（京都市）、北部九州における弥生遺跡の実態調査（福岡県福岡市、佐賀県神埼町）、京都大学総合博物館の実態調査

3. 研究発表等

- 忽那敬三：「考古学について③～発掘の方法と手法～」加古川市民牛津大学講師
山本悦世：「遺跡に残された縄文農耕の痕跡」古代学協会四国支部第15回大会
光本 順：「古墳における死者身体の象徴性に関する一侧面」人類史研究会第13回大会

4. 論文・資料報告

- 山本悦世：「縄文時代の景観復元と生業に関する実証的研究－岡山県における石器・植物遺体（種子）の集成－」
岩崎志保：「各都道府県の動向」岡山県」「日本考古学年報」52
「縄文時代の景観復元と生業に関する実証的研究」
忽那敬三：「彌生埴輪の変遷と性格」『考古学研究』第191号
高田浩司：「吉備における弥生時代中期の石器の生産と流通」『古代吉備』第21号
「南方（済生会）遺跡出土のサヌカイト製石器の使用痕」『岡山市埋蔵文化財センター年報1』岡山市教育委員会
光本 順：「古墳の副葬品配置における物と身体の分類及びその論理」『考古学研究』第48巻第1号
「陶棺の装飾位置と儀礼的効果に関する一試考」『古代吉備』第23集
横田美香：「縄文時代の景観復元と生業に関する実証的研究」

第4章 2001年度における調査・研究活動

調査 本年度は、発掘調査2件・立会調査40件の計42件を実施した。主な成果として、まず条里閑連遺構について新たな知見が挙げられる。第26次調査地点で確認された東西方向の近世溝と、第27次調査地点で検出された条里に対応する可能性がある南北方向の畦町から、津島南地区においても条里を反映した区割りの存在を想定する必要が生じてきた。これまで比較的明らかであった津島北地区の状況とあわせ、今後条里の存在を考慮しつつ調査を行う際に有用なデータとなろう。そうした条里に関連するとみられる遺構が存在するなかで、中世の洪水砂がこれまでにない規模で堆積していた第27次調査地点の様相を考えると、耕作地が一帯に広がるというこれまでの想定とはまた異なり、一部で複雑な地形を呈していた中世の津島岡大遺跡の状況について検討する必要があるといえよう。

また、津島南地区における绳文時代後期の地形が明らかになり始めたことも大きな成果である。津島岡大第26次調査地点では、黄褐色砂質土からなる微高地と、その北半を東西に流れる大小の河道が確認された。第23次調査地点でも同時期に大きな河道が存在していたこと、また薬学部の東側で河道の存在が推定された立会調査の成果と考え合わせると、いくつもの河道によって島状に分断されていた当時の状況を想定することができる。第26次調査共同溝部分ではかが検出されていることから、北方向に遺構が広がる可能性がある。

鹿田地区では、総合教育研究棟調査予定地周辺で中世土器が多数集中する地点が確認されている。中世集落の広がりを考える上で重要な知見であり、本調査の成果が期待される。

研究 2001年度は、2002年度・2003年度に刊行をめざす報告書の整理作業を中心に行い、多くの知見を得た。それらは報告書で述べられるため本紀要では触れなかったが、今回示したような植物の種子、樹種同定など多岐にわたる分野で成果が上がっている。このほか、年報18、センター報26号・27号を刊行し、研究の一端を示している。

展示・公開 2001年度は、本センターの展示・公開活動にとって画期的な年度となった。まず強調されるのは、考古学講座と共同で考古資料展示室の開館準備に携わったことである。本格的な展示設備をもつ施設に所蔵遺物を展示することは、かねてより見学者から展示施設の充実を指摘されていたこともあり、一般への公開の幅が広がったという点では意義深いことであった。その半面、維持管理やいわば「看板」となる遺物が抜けた本センター内の展示室の充実など、新たな問題も生じている。また、継続して開催している発掘成果展の見学者が前年の1.7倍を数え、盛況のうちに終了した。リビーターの定着等の状況は、成果展の存在が一般に認識されてきたことを示している。今回、初めて附属図書館の展示と連携した結果見学者の増加に反映するなど、展示・公開に対するここ数年の本センターの新たな取り組みが実を結びつつあるといえるだろう。

課題 昨年以来の調査を継続する一方で、調査及び整理作業をもとにした研究成果を年報・センター報などの刊行物に反映するとともに、報告書作成に向けて着実に蓄積しつつある。それに加え、展示・公開活動の面でもさらなる充実をはかっており、全体を通じて堅調な活動を維持したといえる。しかし、保管資料の増加による収納空間の不足、それに伴う遺物の管理環境及び作業環境の悪化などの問題が生じ始めている。また、大学改革の激しい波が迫るなか、より一層の調査研究活動と、その公開が求められている。調査の件数が漸減すると予想される情勢のなかで、これまで同様高いレベルの調査を維持しつつ、展示・公開活動と、より内容を充実させた報告書の刊行を進め、成果を積極的に公表し存在意義を顯示していく姿勢が必要であろう。
(忽那)

附 編

岡山大学構内埋蔵文化財保護対策要項

1. 岡山大学埋蔵文化財調査研究センターの内部規程

(1) 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター規程

昭和62年11月26日岡山大学規程第48号

改正 平5. 2. 25規程4号

平7. 3. 31規程19号

平12. 3. 31規程38号

(設置)

第1条 岡山大学（以下「本学」という。）に岡山大学埋蔵文化財調査研究センター（以下「センター」という。）を置く。

(目的)

第2条 センターは、本学の敷地内の埋蔵文化財について、次の各号に掲げる業務を行い、もって埋蔵文化財の保護を図ることを目的とする。

- 一 埋蔵文化財の発掘調査に關すること。
- 二 発掘された埋蔵文化財の整理および保存に關すること。
- 三 埋蔵文化財の発掘調査報告書の作成等に關すること。
- 四 その他埋蔵文化財の保護に關する重要な事項。

(自己評価等)

第2条の2 センターは、岡山大学学則（平成6年岡山大学規程第64号）第2条の定めるところにより、センターに係る点検及び評価（以下「自己評価」という。）を行い、その結果を公表する。

- 2 前項の自己評価については、本学の職員以外の者による検証を受けるよう努めるものとする。
- 3 第1項の自己評価を行うため、岡山大学埋蔵文化財調査研究センター自己評価委員会（以下「自己評価委員会」という。）を置く。
- 4 自己評価委員会に関し、必要な事項は、別に定める。

(教育研究等の状況の公表)

第2条の3 センターは、教育研究及び組織運営の状況等について、定期的に公表する。

(センター長)

第3条 センターにセンター長を置く。

- 2 センター長は、専門的知識を有する本学の専任教授のうちから学長が命ずる。
- 3 センター長は、センターに關する業務を掌理する。
- 4 センター長の任期は、2年とし、再任を妨げない。

(調査研究室)

第4条 センターにセンターの業務を処理するため調査研究室を置く。

- 2 調査研究室に室長、調査研究員及びその他必要な職員を置く。

- 3 室長は、専門的知識を有する本学の専任教官のうちから学長が命ずる。
- 4 室長は、センター長の命を受け、センターの業務を処理する。
- 5 室長の任期は2年とし、再任を妨げない。
- 6 調査研究員及びその他の職員は、上司の命を受け、センターの業務に従事する。

(調査研究専門委員)

第5条 センターに、センターの業務のうち特に専門的な事項についての調査研究の推進を図るため、調査研究専門委員（以下「専門委員」という。）を置く。

- 2 専門委員は、本学の専任教官のうちから学長が命ずる。
- 3 専門委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。

(管理運営の基本方針等)

第6条 センターの管理運営の方針等は、岡山大学部局長会で審議する。

(運営委員会)

第7条 センターに、センターの運営に関する具体的な事項を審議するため、岡山大学埋蔵文化財調査研究センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置く。

- 2 運営委員会に関し、必要な事項は別に定める。
- (事務)

第8条 センターの事務は、施設部企画課において処理する。

(雑則)

第9条 この規則に定めるものほか、センターに関し必要な事項は、学長が別に定める。

附 則

- 1 この規程は、昭和62年11月26日から施行する。
- 2 この規程施行後最初に任命されるセンター長。室長及び専門委員の任期は、第3条4項、第4条第5項及び第5条第3項の規程にかかわらず、昭和64年3月31日までとする。

附 則

この規程は、平成5年5月25日から施行する。

附 則

この規程は、平成7年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成12年4月1日から施行する。

(2) 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター運営委員会規程

昭和62年11月26日岡山大学規程第50号

改正 平12. 3. 31規程93号

(趣旨)

第1条 この規程は、岡山大学埋蔵文化財調査研究センター規則（昭和62年岡山大学規程第48号）第7条第2項の規程に基づき、岡山大学埋蔵文化財調査研究センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）に関し、必要な事項を定めるものとする。

(審議事項)

第2条 運営委員会は、岡山大学埋蔵文化財調査研究センター（以下「センター」という）の運営に関する具体的な事項を審議する。

(組織)

- 第3条 運営委員会は、次の各号に掲げる委員で組織する。
- 一 埋蔵文化財調査研究センター長（以下「センター長」という。）
 - 二 本学の教授のうちから学長の命じた者若干名
 - 三 センターの調査研究専門委員のうちから学長の命じた者1人
 - 四 センターの調査研究室長
 - 五 施設部長
- 2 前項第2号の委員の任期は、1年とし、再任を妨げない。

(委員長)

- 第4条 運営委員会に委員長を置き、センター長をもって充てる。
- 2 委員長は、運営委員会を招集し、その議長となる。
 - 3 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名する委員がその職務を代理する。

(委員以外の者の出席)

- 第5条 委員長が必要と認めたときは、委員会以外の者の出席を求め、その意見を聞くことができる。

(庶務)

- 第6条 運営委員会の庶務は、施設部企画課において処理する。

附 則

- 1 この規程は、昭和62年11月26日から施行する。
- 2 この規程施行後最初に任命される第3章第1項第2号の委員の任期は、同条第2項の規程にかかわらず、昭和64年3月31日までとする。

附 則

この規程は、平成12年4月1日から施行する。

(3) 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター自己評価委員会規程

平成5年2月25日岡山大学規程第5号

改正 平12.3.31規程94号

(趣旨)

- 第1条 この規程は、岡山大学埋蔵文化財調査研究センター（昭和62年岡山大学規程第48号）第2条の2第4項の規程に基づき、岡山大学埋蔵文化財調査研究センター自己評価委員会（以下「委員会」という。）の組織および運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(審議事項)

- 第2条 委員会は、岡山大学埋蔵文化財調査研究センター（以下「センター」という。）に係わる点検及び評価の実施並びにその結果の公表に関し、必要な事項を審議する。

(組織)

- 第3条 委員会は、次の各号に掲げる者で組織する。
- 一 埋蔵文化財調査研究センター長（以下「センター長」という。）
 - 二 埋蔵文化財調査研究センター調査研究室長
 - 三 センターに勤務する教官のうちから若干名
 - 四 埋蔵文化財調査研究センター運営委員会委員のうちからセンター長が委嘱した者若干名
 - 五 施設部長

3 前項に定める委員のはか、センター長が必要と認めた者を加えることができる。

(委員長)

第4条 委員会に委員長を置き、センター長をもって充てる。

(会議)

第5条 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

2 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名する委員がその職務を代行する。

(庶務)

第6条 委員会の庶務は、施設部企画課において処理する。

(雑則)

第7条 この規程に定めるもののはか、委員会に關する必要な事項は、別に定める。

附 則

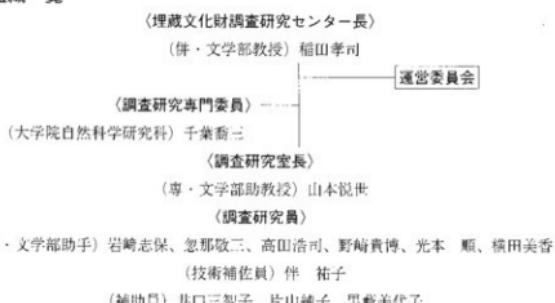
この規程は、平成5年2月25日から施行する。

附 則

この規程は、平成12年4月1日から施行する。

2. 2001年度埋蔵文化財調査研究センター組織

(1) センター組織一覧



(2) 運営委員会

委員

センター長	稲田 孝司	文学部教授	新納 泉
文学部教授	久野 修義	大学院自然科学研究科	柴田 次夫
大学院医歯学総合研究科	村上 宅郎	事務局	森内 寿一
環境理工学部教授	名合 宏之		
大学院自然科学研究科	千葉 喬三 (調査研究専門委員)		
埋蔵文化財調査研究センター	山本 悅世 (調査研究室長)		

3. 2001年度審議・決定事項

- 2001年5月24日 平成12年度決算及び平成13年度予算案について
 平成13年度事業計画について
 技術補佐員の採用について
 鹿田遺跡第12次発掘調査概要報告
- 2002年2月8日 平成14年度予算案について
 平成15年度概算要求について
 運営委員会委員の任期について
 技術補佐員の採用について
 発掘調査の予定について
 津島岡大遺跡第26次発掘調査概要報告
 第5回岡山大学キャンパス発掘成果展について

4. 岡山大学構内遺跡の発掘調査にかかる安全管理事項

岡山大学構内遺跡の発掘調査にかかる安全管理事項

平成12年5月15日

埋蔵文化財調査研究センター長
施設部長

I 請負業者が留意すべき事項

1. 請負業者は現場代理人を発掘作業の現場に常駐させ、作業員の安全と健康の管理につとめること。
2. 発掘作業の現場に「地山削除」と「土止め支保工」の技能講習修了者をおき、作業員の安全や健康にも注意すること。
3. 工事用電力の保安責任者をおくこと。
4. 非常停止装置を備えたベルトコンベアーを用いること。
5. 重機の運転は、免許所有者がおこなうよう厳守させること。

II 発掘現場で注意すべき事項

1. 服装・装備・用具等
 - 1) 安全で機能的な服装にする。
 - 2) 平坦面から2m以上の穴等を掘削する場合は、ヘルメットを着用する。
 - 3) ベルトコンベアーの移動時および周辺での作業の際には、ヘルメットを着用する。
 - 4) グラインダーを使用する際は、手袋・防護眼鏡を着用する。
 - 5) スコップ・草刈りなどの用具は、危険がないように使用方法や置き方や保管方法に十分注意する。
2. 掘削
 - 1) のり面の角度

造成土：通常の土壤の場合は50~60度とし、これを確保できない場合は土止め等の手当をおこなう。砂地の造成土の場合は35度とし、これを確保できない場合は土止め等の手当をおこな

う。

堆積土：基本75度とし、状況や土質に応じて安全な角度をとる。

発掘区の壁際を深さ1.5m以上掘削する場合は、原則として途中で段を設ける。その場合の段の巾は、60cm以上とする。

2) のり面の保護

のり面はシート等で覆うなどし、崩落防止のために必要な保護措置をとる。

3) 深い造構（深さ1.5m以上の造構）

造構掘削者以外の者が上面で安全確認を行い、十分な注意を払う。場合によっては周囲を広くカットして対応する。

なお、作業現場内への昇降のために、階段を設置する。

3 高所（高さ2m以上の場所）での作業

1) 作業中には安全帯を使用する。

2) 架台を組んだ場合は最上段に手すりを設け、安全を確保する。

3) 2段以上の架台は、分解して移動させる。

4 発掘用機械類の操作

（ベルトコンベア・ポンプ等）

1) 調査用電源の設置と取扱いについては、工事用電力の保安責任者が安全確認を行う。

2) ベルトコンベア・水中ポンプ等の知識を持つ者が整備・稼働させる。

3) ベルトコンベアを重ねたつなぎ目の部分には、なるべく土が落ちないような措置をする。

4) 原則としてベルトコンベアの直下での作業、通行を避ける。

5) ベルトコンベアの移動時は作業員の中で指揮者を決め、周辺の安全性を確保したうえで移動させる。

（重機関係）

1) 重機の免許所有者以外は運転しない。

2) 運転者は、周囲の安全に注意する。

3) 稼働中は、重機の旋回半径内に立ち入らない。

5 健康管理

1) 作業中に体調が悪くなった場合は直ちに申し出る。

III その他

1) 作業現場内の状況の変化に絶えず注意し、異常を発見したら、直ちに作業を中止して現場代理人に報告し、施設部の監督職員の指示を受ける。

2) 調査区の状況や造構などの特殊性・重要性等により、上記の2の1)～3)どおりに発掘作業を実施することが困難な場合は、現場代理人が監督職員と協議のうえ、安全に留意し作業を行う。

附 表

附表1 1982年度以前の構内主要調査（1980～1982年度）

年版	調査名調査地区名	種類	所轄	調査名 称	調査会議	調査面積 (m ²)	文 件	備 考
1980	農田	立会	農	開拓圃地新設	岡山市教育委員会	8		
	津島南 BD25	+	農	開拓地新設	+			
	津島北	+	文法	合併処理堆積段	+			
	津島北	+	文法科	合併処理堆積段	+			
	津島南 BD09 BD10～11	+		基幹新設（片岡溪取付）	△			
1981	津島市 BD～BD14～ 07	+		陸上競技場改修（配水管施設）	△			
	農田	医病	高気圧治療床新設	△				
	+	+	動物繁殖棲新設	△	岡山市教育委員会			試掘資金をせず破壊苗跡面積の調査
	+	+	病害抑制装置新設	△	岡山市教育委員会			
	+	医	運動場改修	△				
	津島 AV06～10 AW05～14 AN08, BD07 BE10	試掘		荷木幹の整備	△			津島 AW14区で弥生時代盆地含頭部 成、崩落
	小瀬川口黒 津島北 AW14	発掘	文法	排水渠中槽（NP-1）廻立	岡山大学	24.0	3	（津島同人第1次調査）
	津島北	試掘	学生	武道館新設	岡山市教育委員会	2.3		
1982	津島北 AY15～16	+	法科	伝令新宮	△	7.0		
	農田	医	標準保育室新設	△	岡山市教育委員会	8.0		
	+	医病	外半身座便新設	△	岡山市教育委員会	4.0	2	
	+	立会	動物繁殖施設新設排水渠・ガス管理設	△	岡山市教育委員会	1		
	農田 AE～AN22 AE22～26	+	農	電話ケーブル埋設	岡山大学環境文化系調査室			

文献

1. 先人著：「岡山大学医学部附属病院動物施設新設工事に伴う土質取扱工事に伴う土質調査」『津島川尾根底谷成層』13 1983 岡山市教育委員会
2. 本府 伊 「岡山大学医学部附属病院排水渠新設改修に伴う壁面調査」『岡山県埋蔵文化財報告』13 1983 岡山市教育委員会
3. 古井秀敏 「岡山大学津島校小瀬川口至黒川口（AW14区）の堀留新設」『津島川尾根底谷調査報告第1集』1985 岡山大学埋蔵文化財調査室

附表2 2000年度以前の構内主要調査（1983～2000年度）

附表2-(1) 発掘調査

総合番号	年版	番号	遺跡名	調査地区	面積	調査名 称	調査会議	面積 (m ²)	直 製	文 件
2	1983～ 1984	9	農田	AU～RD28～40	田舎	外半身座便新設（農田第1次調査）	7.27～11.22 84.1.9～8.31	2188	弥生時代中期後半～中・丘井集落 地	7
3	1983	10	農田	BG～BH18～21	田舎	NMR-CT 施設新設（農田第2次調査）	8.1.1～12.30	176	弥生時代後期～中井集落	7
10	1983	11	津島南	BF14～15 BH17～ 18 BG14～ BH14～15	農	初音管新設（津島南第2次調査）	84.1.9～3.5	265	弥生時代早・前半集落	4
10	1983	12	津島南	BH13	農	合流新設排溝（津島南第2次調査）	11.14～11.22 84.1.9～3.5	276	弥生時代早・前半集落	4
31	1986	1	農田	CN～CU27・28 CT～CY19～27 CX～DD16～25 DD～DG22～23	田舎	枝吉新設（農田第3次調査）	6.2～11.29	290	古代・中世の聚落址	10
36	1986	2	津島北	AV00 AV00～ AW00	学生	男子十才寮新設（農田第3次調査）	12.1～87.6.18. 8.24～9.5	1550	縄文時代後期～弥生時代早期の河 道、弥生時代の聚落址・水田址、 古代・近代の水田址	19
38	1986	3	津島南	BF～BG09	学生	南門通新設新設（津島南第4次調査）	87.1.19～1.22	70	弥生時代前期の聚落、中世河貯 池	6
32	1987	2	農田	BB～BH31～12	医病	管理棟新設（農田第5次調査）	10.6～88.3.2 88.3.23～3.31	1102	弥生時代中期後半～中・近世の墓 地	26
54	1987	3	農田	DD～DP25 DG～DH27～28	田舎	校舎新設（農田第4次調査）	11.2～11.21	30	古代の河道	10
65	1988	1	津島北	AY06～08 AZ06～07	大丘	自然科学研究井権 (津島北第4次調査)	6.27～89.3.19	1537	縄文時代後期・弥生時代早期の野 戸穴と河道、弥生時代～近世の水 田址	27

総合番号	年度	番号	遺跡名	調査地区	所属	調査名・特	調査期間	面積 (m ²)	性質	文献
67	1988	2	津島北	AV - AW04 - 05	工	生物応用工学科 (津島廻大第6次調査)	9.20~89.5.31	600	縄文時代後期、弥生時代早期の軒 窓穴と河底、弥生時代~近世の水 田跡	35
70	1988	3	津島北	AV - AW05 - 06	工	植物生物学研究会 (津島廻大第7次調査)	10.12~89.5.31	800	弥生後期~弥生時代早期居住地、 弥生時代~近世水田跡	35
65	1990	1	津島北	AY - A708	大沢	自然科學系研究会 (津島廻大第5次調査)	4.3~4.21	90	古墳時代地盤の調	27
92	1990 - 1991	2	鹿児	BW ~ BC07 - 71	ア	アイソット・総合センター (鹿田第6次調査)	11.20~91.6.301	690	弥生~古墳時代の軒、土塗、羅奇 時代の窓・井戸群	40
96	1991	2	津島南	BD18 - 19	表	提出田実業技術 (津島廻大第8次調査A地点)	7.23~12.23	650	縄文時代後期~弥生時代の軒 窓穴と河底、古墳時代~土塁、石壁地、 弥生時代~近世の窓等	32
96	1991	3	津島南	BR13	表	(会社地盤)	7.23~12.2	140	弥生土器、石器群、古代~近世水 田	32
104	1992	1	津島北	AU - AW01	上	生体遺迹の用工作業場 (津島廻大第9次調査)	7.1~93.1.29	650	縄文時代後期~弥生時代早期の軒 窓穴と河底、弥生時代~近世の水 田跡	47
108	1992 - 1993	2	津島南	BR ~ BC10 - 11	保	保謹管産センター (津島廻大第10次調査)	93.2.1~3.31, 4.17~7.31	400	弥生時代後期土塁等、弥生~古墳 時代(?)の土塁、古墳時代住居 址、古墳跡、野原ほか	25-30
115	1993	2	津島北	AV - AW11 ~ 12	保	総合情報処理センター (津島廻大第11次調査)	9.14~94.1.11	640	縄文後期~弥生・古墳時代中期水田 跡、古墳時代水田跡	36
127	1993 - 1994	1	津島北	AV ~ AW13 ~ 14	同	吉普羅(津島廻大第12次調査)	94.2.9~3.31, 4.1~11.30	1472	縄文時代土塁、弥生時代~古墳時 代水田跡、古墳・柱跡、中 世遺跡ほか	33
134	1994 - 1995	2	津島北	AW ~ AX11 ~ 12	予	理研原子設計北候 (津島廻大第13次調査)	10.6~11.30, 95.7.10~10.4	816	縄文時代後期ヒット、弥生時代水 田、古墳時代水田跡、古代柱・柱跡、中 世遺跡ほか	41
144	1995	2	津島南	BR ~ BC12 - 13	事	組合厚生課未採 (津島廻大第14次調査)	10.25~2.14	856	弥生時代の水田、弥生~古墳時代 の窓、土塁	46
147	1995 - 1996	3	津島北	AW00 - 01	サ	サテライティベンチャーキャピタルスク ワゴトリ・リース新 (津島廻大第15次調査)	96.1.16~4.25	1600	縄文後期の窓袋火、塗穴柱、 セ・ピット、土塁、河底、弥生・早 期の城跡、河底、弥生時代の水 田・溝	38
153	1996	2	津島南	BD19 - 20	農業	動物火葬未採新 (津島廻大第16次調査)	96.3.7~15	30.3	古墳地盤、縄文時代と複数時代の 窓・甘利窓、中世の、古代の柱 穴、弥生時代の水田	44
154	1996	3	津島北	AW02 ~ 04	造	環境理工学新研究 (津島廻大第17次調査)	96.5.21~1.9	1451	縄文後期の窓は、ヒット 柱・土塁、弥生時代の水田、 古代の水田	44
173	1997	1	三朝		実	実物研究室新設工事・本体 ・事務室・福島通路第1次調査	97.5.10~5.20, 7.28~31	269	縄文時代半葉、弥生時代中期・中 世盆地帯、古墳全帶等、遺構確認。	35
174	1997	3	三朝		基	実物研究室新設工事・福島通路第2次調査	97.11.25~12.5	120	近世・中世・古代の古墳帯、遺構 確認。	55
175	1997 - 1998	4, 1	唐田	BR05 ~ BN61 - BY06 - 57区	監	基盤広域探査 (津島廻大第7次調査)	98.2.27~8.6	829	古墳時代中期の住居跡、窓・柱建 物等、中世の窓・セ・ピット、青、 近世の水田・溝を確認。中世セル 型小墓出土。	50-53
186	1998	2	津島南	BB11	少	恒理施設(?)新設に伴うボンブ 埋設工事に伴う調査	98.4.7~4.10	16	古代の調査遺構	53
187	1998	3	津島北	AZ09 - 10	理	コラボレーションセンター新設に 伴う調査	98.7.27~ 99.2.18	1019	縄文後期標構、弥生・古墳時代河底、 古墳時代の溝跡、中世溝、古墳直 路状遺構、溝	33
188	1998	4	農田	BP ~ RS30 ~ 32	病	和田中央新設工事に伴う調査 (津島廻大第8次調査)	98.7.28~9.1	156	古墳時代溝、中世溝	53
189	1998	5	津島北	AV07	保	和田中央新設工事に伴う調査 (津島廻大第9次調査)	98.10.19~28	16	黒色土上断溝、ヒット、中世溝	53
190	1998	6	津島北	AN09	少	エレベーター設置に伴う調査 (津島廻大第10次調査)	98.11.6~24	30.2	縄文時代中期の、古墳時代中期 ・前葉期、古墳時代・溝跡確認。併 て後石室・扶手普及・出土	53
191	1998 - 1999	7	唐田	CD33 ~ 37, CE - CF28 ~ 37, CG - CD3 ~ 37, CK - CL25 ~ 37	医研	脳神新設に伴う調査 (唐田通路第9次調査)	98.11.27~ 99.5.11	2088	弥生中期水田跡、古墳時代・溝跡、 中世溝・青、古代溝・水田堆疊、古墳時代 ・後石室・扶手普及・出土	53
192	1998 - 1999	8	津島北	AW02 - 03	造	松谷(日別)新設に伴う調査 (津島廻大通路第11次調査)	99.3.1~ 7.12	773.5	縄文後期河底・土塁・セ・ピット跡 ・水田・溝跡、古墳時代・溝跡、古墳時代 ・後石室・扶手普及・出土	53
210	1999	3	鹿児	CD ~ CF10 ~ 12, DD ~ DF16 ~ 22	医研	共同設置に伴う調査 (鹿田通路第10次調査)	99.5.7~ 99.10.14	244.1	セ・ピット跡、露天マンホール・ PCボックスカルバート地盤では 古代の糞列、到達立坑部分では弥 生・ヒット、古墳	56
211	1999	4	唐田	CD ~ CM10 ~ 42	医研	病院新設に伴う調査 (唐田通路第11次調査)	99.8.19~12.22	2020	弥生時代水田跡群、古代河底遺 構、中世・近世溝・井戸・セ・ピット 跡等確認	56

総合 番号	年度	番号	道路名	調査地区	所属	調査名称	測量期間	面積 (m ²)	概 要	文献
212	1999	5	津島北	AZ15・BA11	文部 省	社会技術研究に伴う調査 (津島周大遺跡第23次調査)	03. 2. 3 ~ 7. 28	1389	縄文後期河岸・杭列、弥生前期河 道・溝、渠、井、中世-近世土塁	56
249	2000	2	鹿田	CD-CV35~44, CN・CM38~41, CN28~38	例	エキセルギーセンター新工事に伴 う調査(鹿田遺跡第12次調査)	00.10. 2 ~ 01.05.10	1.3~1.8	弥生時代後半・河原、古墳時代上 坡・溝、中世井井・柱穴群、溝、近世土坑・坑	56-61
259	2000	3	津島北	AZ14	文部 省	総合研究施設改築工事に伴 う調査(津島周大遺跡第24次調査)	00.12. 5 ~ 14	3.5	縄文後期河岸・杭列	61
267	2000	4	津島北	BA15	農 業	農地造成工事に伴う発 掘調査(津島周大遺跡第25次調 査)	01. 1. 29 ~ 31	2.4	中世-近世の溝、杭	61
274	2000	5	津島南	BC~BD14~15	事 務所	事務所新設に伴う発掘調査 (津島周大遺跡第26次調査)	01. 3. 26 ~ 01. 9. 30	1550	近世の溝、縄文-弥生時代の河 道・坑窓穴・土坑・炉跡	56-61

附表2-(2) 試掘・確認調査

総合 番号	年度	番号	道路名	調査地区	所属	調査名称	掘削深度	造成土壌	概 要	文献
4	1983	1	津島南	BH13	農	台耕処理予定地	2.5		弥生時代初期上器層 (83年度実験)	1
5	1983	2	津島南	BH17	農	排水水引開拓ゾンブ予定地	3.5			1
8	1983	3	津島南	BE-BG14 BE- BH15 BE18 BF16~18	農	耕作土壤造成予定地	2.0		29+所(試掘)、弥生時代前期土器 (83年度実験)	1
11	1983	8	津島北	AW03	丁	校舎新設予定地	3.0	1	土器片出土	1
12	1983	5	津島南	BC・BD15	事	大学附属施設新設予定地	2.0~3.0	0.9	土器片出土	1
13	1983	6	津島南	BH10	保	保育施設センターホーム予定地	2.0~3.0	0.8	廻出	1
14	1983	4	津島南	BF22~23	農	農場分合新設予定地	2.0~3.0	0.6	土器片出土(1987年度工事立会)	1
15	1983	7	津島南	BH16	宇	津島農協新設予定地2.0	0.9	0.9	土器片出土(1987年度工事立会)	1
21	1984	1	鹿田	BUGO・31	医病	西病院北側受付棟予定地	1.4	0.5~0.7	中糸切・包装帶等	2
22	1984	2	鹿田	CF・CU05 CZ19・20・23~24	民野	医療初期大学校新設予定地	2.7	0.8~1.0	中世-古墳の遺物(1) (1986年度実験調査)	2
23	1985	3	津島北	AV・AW99~01	学生	男子学生寮新設予定地	2.0~3.0	1	縄文時代-中世の遺構・遺物 (1986年度実験調査)	5
24	1985	2	津島北	AX02	教育	研究棟予定地	2.6~3.4	1.2	縄文-弥生時代土器出土	5
25	1985	1	津島南	BE08	政教	講義棟予定地	3.5	1.2	遺構・遺物(1986年度工事立会)	5
29	1985	4	鹿田	AG33・A40 AF・AK26	医病	外拠地複数段階整備工事に先立つ 施設開拓調査	2.2~3.0	0.9~1.1	弥生時代-中世の遺物	5
35	1986	3	津島南	BH・BG09	学生	境内施設新設予定地	2.4	1.2~1.7	1.1 弥生時代初期-中世河岸段丘 (1986年度実験調査)	6
37	1986	4	津島北	AY・AZ07	大自	自然科學研究科植物資源予定地 (1988年度実験調査)	1.6~3.2	0.6~0.8	縄文時代中期-後期の遺物・遺 構(1988年度実験調査)	6
45	1987	4	土生	AP02	事	外国人前宿建設予定地	2.2~2.8		近世-弥生時代-縄文時代の遺構 遺跡	8
46	1987	5	津島北	AV11	住	総合情報処理センター新設予定地	2.0~3.0	2	黒色土を基盤とする2.3mで構成 (1993年度実験調査)	8
48	1987	6	津島北	AY09	理	身体障害者用エレベーター建設予 定地	3.0~3.5	約1.0	遺物・中世の遺物(1) 水辺址(經緯して発見調査に及ぶ)	8
49	1987	7	津島南	BD09	教委	身体障害者用エレベーター建設予 定地	2.5	0.7	縄文時代-中世-古墳・土器・中 神・近世土器出土 (經緯して発見調査に及ぶ)	8
61	1988	17	津島北	AX04・06 AW04	工	校舎建設予定地	2.0~3.5		黒色土を基盤とする2.6mで構成 遺物・中世の遺物(1) 水辺址(1988年)	11
62	1988	19	津島南	BD15・19	農業 生産	動物実験官育成施設及び伝子生物学 施設	2.3	1.1~1.2	黒色土: 植被高約2.3mで構成 遺物・中世の遺物(1)	11
63	1988	20	津島南	BC29	事	国際交流会館	2.5	1.2	近世-中世の遺物(1) (1988年度工事立会)	11
77	1989	3	津島北	AZ17	人活	合作処理構築予定地	4.0	1.6~2.0	中世-明治の水田の輪郭・溝 (1989年度工事立会)	14
78	1989	4	津島南	BD02	学生	学生宿舎新設予定地	2.0~3.2	1	弥生時代早・前原の輪郭 (1989年度工事立会)	14
79	1989	2	津島南	AZ・BA05	教育	身体障害者用エレベーター	2.5	0.8	縄文時代後半-前期の施設 ・廻出(1989年度実験調査)	14
83	1989	5	津島北	AV・AW13	医病	福善新設予定地	3.0	1.4~1.6	古代水田・弥生-古代の溝 (1989~1990年度実験調査)	14
87	1990	3	津島南	BC02	学生	学生宿舎新設予定地	2.5	1.1	弥生時代初期-中期・中世 ・古墳(1990年度実験調査)	16
89	1990	4	有敷 地区		資生	資源生物科学施設新設施設調査	2.5	0.7	中世後半以降の土器片	18
90	1990	5	里田	BY・BZ08	ア	アイソトープ総合センター新設地	2.3	1.2~1.3	中世土器質土器など (1990~91年度実験調査)	18

総合番号	年度	番号	調査名	調査地区	所属	調査名称	掘削深度	造成土厚	概要	文献
91	1990	6	津島北	AW-AX11	水	福利厚生施設予定地	3.9	1.4~1.6 片	弥生~古墳時代の溝、中世土器小片	18
121	1993	3	津島市	BE-RF・22~23	農	鳥島別山用耕作実験史跡施設	1.5		中~近世耕土	30
136	1994	3	津島市	BD20	農業	動物実験施設	2.0	0.9	GL-1, 4mで黒色土、礫文土等一点出土	23
140	1995	4	津島市	BE25	水	国際交流会館新幹事予定地	4.1~2.4	1.6	高成土以下、明治~近世、中世と思われる上層遺物。以下は湿地状。出土遺物なし。遺構は明治のもの。	38
146	1995	5	津島北	AW02・03	環	環境理工学部新幹事	2.4	1.2	標高3.0mで黒色土上面。弥生時代の遺構遺構無。	38
150	1995	6	津島市	BH07	宇	ボクシング部ボックス移設	3.0	3	標高2.5mで黒色土標記。弥生~古墳時代の溝2条、古代溝1条確認。	38
176	1997	5, 6	三河		国	実業研究新幹事工事に伴う試掘調査	1.66~2.1	0.8	TP1では-1.4mでシルト質の層。以下砂質がリマ状に堆积。TP2では砂り・近世の2枚の黑色土を確認。	50
177	1997	8	東邦	BT57	医	嘉穂医学園・鹿児島7次廻査開発	2.2	0.9	中唐~古墳時代の灰色土を確認。	50
193	1998	9	津島北	AZ09	理	ゴラナーションセンター新設に伴う試掘調査	2.7~3.4	1.3	標高2.7mで黒色土。弥生前期の河岸。弥生時代以前の埋疊。	53
194	1998	10	津島北	AW02・03	環	校舎(1期)新設に伴う調査	4.5	1.2	2.1mで墨色土。古代~古墳時代の埋疊。	53
195	1998	11	鹿田	CF・CG03・44, CK05・06, CK15	医病	病院新設に伴う調査	2.0~2.4	1.0	4ヶ所、中唐~古墳の埋疊を確認。中段階は透過程が高いた可能性。古墳時代以前については香港か?	53
196	1998	12	貢教地区		貢生研	バイオ実験校新幹事工事に伴う調査	1.5	0.4	近世下拓地内、遺構未確認	53
197	1998	13	津島北	AW01	工	システム工学科新幹事工事に伴う調査	2.8	1.0	1.8mで黒色土。構築後期の遺構確認	53
198	1998	14	津島北	AU02・05・06, AV03	水	道路保護区整備に伴う調査	2.4~3.8	0.8~1.6	TP1, 3, 5は微高地状。TP2, 4は低湿地状。TP1で弥生溝、TP3で弥生溝、ビット、TP4で中世溝。	53
213	1999	6	津島北	AZ15, RA14	文法経	総合校舎新設に伴う調査	①2.7, ②3.5	①0.8 ②1.1	①標高2.5mで黒色土。以降疊積砂質地状。②標高1.9mで黒色土但し、以下河床状の堆积確認。	56
214	1999	7	津島北	AV08	工	電線耐震新幹事に伴う調査	1.2	0.2	現地以下、基盤となる岩盤。	56
243	2000	6	津島北	AV00, AX00, 02, 03, AZ06, AW08	文化	城文化~中世時代における堆积埋炭に伴う調査	2.6~3.2	1.7~0.9	6ヶ所掘削、確定。弥生時代の埋炭、古代墓を確認。	61
257	2000	7	津島北	BB14		鉄道50周年記念新幹事に伴う調査	2	0.8	造成土厚0.8m。標高2.1mで黒色土を確認。	61

附表2-(3) 立会調査

総合番号	年度	番号	調査名	調査地区	所属	調査名称	掘削深度 (m)	造成土厚 (m)	概要	文献
1	1983	13	東山		教育	附属中学校新幹事	4.0~5.0		シート埋戻	1
6	1983	23	鹿田	AO-AW22	医病	外来治療室然氣配管設	1.3		弥生時代後半~前半、分骨形土製品、只輪輪	1
20	1984	20	津島南	BI01・02	水	雪崩合併修理機械配水水管設	1.0~2.2	1.0	溝、土壁抹出、弥生土層、堅密層	2
26	1985	5	鹿田	AW-BH23 BH-BH24	医病	外来治療室然氣配管設	1.3~1.7	0.7~1.3	中唐~弥生の遺構、遺物を確認。	5
30	1985	12	鹿田	AG01, AG24 AF23	医病	蒸煮場実験施設T.9 瓦気風漬 ハンドホール掘削	1.2~1.7	0.8~1.3	中世瓦含混、ビット。	5
33	1986	12	津島南	BE08・09	教養	校舎新幹事	2.3	1.3	中世の溝、土器。	6
40	1986	21	津島南	BG08	学生	ハンドボールコート新設	0.2~2.0	0.8	黑色土確認	6
42	1986	24	鹿田	CL-CR12 CR-CX13 CX-DA14	医病	連岸及び排水工事	2	0.8~1.0	中世瓦含混	6
43	1986	26	津島南	BI07・08	教養	松谷新幹事に伴う電気配管	1.8	0.9	小量瓦含混。	6
44	1987	8	鹿田	BC37	医病	管理棟新幹事に伴う基礎杭基礎	2.5		弥生時代瓦含混、遺構確認。	8
66	1988	17	津島南	BG10・11	教養	テニスコート庭園開明施設	2.2	1.5	黑色土を表す約2.4mで柱跡、西に向かう落ちを窺る。	11
74	1989	6	津島北	AZ08	大自	自然科学研究科新幹事工事用廻路	1.4		弥生時代後期水井、溝確認。	14
75	1989	10	津島北	AU05	工	校舎新幹事に伴う緊急整備	1.9	1.0	生土層確認	14
80	1989	46	鹿田	CB30・32・44 CJ・CK45 CL28・29	医病	町道横路地塁墻整備、外引沟開削	1.2~1.5	0.7~1.0	中世層を確認。	14
85	1990	16, 19	津島北	AV01~10	水	岡山市役所津島東施設新幹事に伴う 種植工事・瓦材移設	0.4~3.0	0.6~1.4	5~10cm、黑色土層、瓦層。 (1980年瓦試験剖面調査)	18

組合 番号	年度	番号	遺跡名	調査 地区	所轄	調査 名 称	掘削 深 度 (m)	造成土厚 (m)	概 要	文獻
88	1990	20	津島北	BC02~04	事	岡山市農本局農業振興課に伴う 被覆工事 I 学生合宿所施設設置 設営	2.3	1.2	GL~2.3mで黒色土確認。	18
95	1991	9	津島南	BC18	通	防火用水池敷地	2.0	0.8	基盤層まで削削。石旗出土。	21
99	1991	17	津島南	BF16	事	津島地区基幹整備（気象）ハンド ホール、アース板	1.7~1.8	0.5	明治層~淡灰色土層	21
101	1991	19	津島北	BD15	事	津島地区基幹整備（気象）アース 板設置	1.7	1.0	GL~1.5mでは赤土上層	21
102	1991	40	津島南	BC・BE・BF12	事	南北道路街灯設置	1.5		3ヶ所、GL~1.4mで古代帶確認	21
105	1992	15	津島南	BD18・19	通	達吐子実験施設ハンドホール設置	0.7~1.5		8ヶ所のうち1箇所のデータ有 効。GL~0.75m~1.1mで明治 層上層・縄文後期まで、構2本 発見	25
107	1992	28	鹿田	BU65・BU~BC 66・BGCT~72 BW・CAT1	ア	アイソトープセンター集水井、 ヒューム管設置	1.4~1.5		GL~0.9mで明治層上面、中世層 1	25
110	1992	34	津島北	AV12	事	附属園芸部緑化施設場所整備	3	1.7	造成土以下粘土層	25
113	1992	41	鹿田	CT13	同	テニスコート監視柱設置	1.2	1.0	古代土1点	25
118	1993	17	津島南	BB~BC~10~12	保	保育施設センターハウスに伴う外構 工事はか 運送屋	1.8	0.6~0.7	明治層以下保育施設センターハウ スと同一層序、淡灰色土層~1.15 ~1.7m、その直下は基盤層	30
119	1993	23	津島北	BA07	事	津島地区基幹整備 RI 共同利用 施設設置施設設備設置	3.2		明治層~中世層、薄暗色土層 古代層?・縄文後期? 11片	30
120	1993	28	津島南	BD~BE13	事	津島地区環境整備 南北道路沿木 路樹セイクスカバー設置	1.5	1.0	明治層、中世~近世層を確認	30
122	1993	39	津島南	BD05~07 BC05~41	学	野球場パックネット・陸競ネット 改修	2.0~3.2	1.0	-1.2~2.0m付近で黒色土を確 認;以上は黄色土層・青灰色土層 10ヶ所、近世~中世層まで削削。 一部で暗褐色土層を確認	30
124	1993	33	津島南	BB~BG~12~13	事	津島地区環境整備 木箱灯設置	1.8	0.5~1.2	10ヶ所、近世~中世層まで削削。 一部で暗褐色土層を確認	30
125	1993	17,19	津島南	BR11	保	保育施設センターハウスに伴う回権 改修・電気配線	1.1	0.8	明治層	30
126	1993	34	津島南	BD~BE12~13	事	津島地区環境整備回転機設置	1.6	1.0	明治層以下、近世から中世層、 基層で暗褐色土層	30
129	1994	5	鹿田	DH50~62	匠	調作改修工事1.5	1.5	0.8	明治層以下、近世から中世層、 基層で暗褐色土層	33
131	1994	9	津島南	BD~BE~ BH04~07	事	陸上競技場照明灯設置	2	0.96	明治ボル (559cm×深さ310cm) オーバー埋設。GL~1.92~2.00 mで黒色土層	33
133	1994	13	津島北	AV10~AW10~ AC11	情	総合情報処理センター新設電気工 事	2.2	1.5	明治1箇所、近世2箇所、中世(五世 か?)1箇所、近世層確認。GL 1.7mで黒色土層	33
137	1994	20	津島南	BD09	農	桃郷邸	2.2	1.5	GL~1.9mで黒色土層	33
141	1995	11	鹿田	BF17~18	医病	鹿田地区基幹整備施設施設工事 路新設	1.5	1.0	造成土以下茶色土層・青灰色粘質 土層、透析なし	38
145	1995	14	鹿田	CD07~08	医病	鹿田地区基幹整備液酸タンク設置 工事	2.3	1.0	中世遺構2箇所確認。廃3条建 築。中世盜蓋がしっかりしてい る。溝内から中世・古代の土器部 出土。	38
148	1995	17	鹿田	CC~CD08~10	医病	鹿田地区基幹整備附属施設液酸タ ンクU字溝工事	1.23	0.85	伝令管確認。中世のU字溝部分 既に埋設、基層などでは残存部分 は区画開拓の1~2程度	38
149	1995	23	鹿田	DF56~67	医	防ぼネット取扱工事	3	0.8	溝60cmを12箇所。1箇所で土器 片、石器の採集あり。溝内土膏 りは、GL~2.2m以下が明治過	38
152	1996	4	津島南	BC18	農業	動物実験施設新設に伴う造込土取り	2.2	1.9	黒色土層附近まで削削	44
155	1996	5	津島南	BD16~19	農業	動物実験施設新設に伴うランドホー ル設置工事	1.3		4箇所。造成1以下5帯確認	44
160	1996	12	津島北	AV02~AV03 AV01, AV09, AW02~AW04	事	サテライティンチャーピングネスラ ガリット・新幹線・配管設置工事	1.0~1.5	0.76~ 1.1	6箇所、明治層2箇所、近世層2 箇所、中世層? 1箇所、縄文層? 1箇 所	44
161	1996	13	津島北	AV02~AW03	事	サテライティンチャーピングネスラ ガリット・新幹線・配管設置工事	2	0.95	先史時代の層まで削削。古墳時代 施設の発達・貴物確認	44
164	1996	18	津島北	AW03	埋	埋設物下部部荷重定め電柱移設 工事	2		黒色土まで削削	44
169	1996	25	津島北	AV13	同	津島地区新幹線渦水構・外構工事	1.3	1.0	造成土以下、青灰色粘土層・黃 褐色粘質土・灰褐色粘質土を確認	44
178	1997	9	三朝		同	実験研究棟新設に伴う興隆部分	0.5		斜面部分にトレンチ3箇所、地山 確認。	50
179	1997	10	三朝		同	実験研究棟新設に伴う興隆工事部 分	4.0	1.5	GL~1.5mで瓦礫層確認。先史土 器片発見。	50
180	1997	11	三朝		同	実験研究棟新設に伴う本体工事部 分	2.0~2.5		工事範囲内未調査のうち1/2 削削済。壁面で焼造確認。	50
181	1997	16	津島南	BB13~BH13	事	南北道路ガス管路設工事	1.5		中世層まで削削。	50

総合 番号	年度	番号	測定名	調査地区	所轄	調査名 称	探削深度	造成土厚	概 略	文献
182	1997	18	三朝	—	四 春	実験研究新幹線に伴う電気風洞試験 地工事	1.0	1.0で中堅層。色合は東に向か いと赤レッドが上位。	50	
183	1997	19	津島南	—	春	西北道路ガス管敷設工事	1.5	中堅の記入無層部。	50	
184	1997	24	津島南	BC12	宇	福利厚原施設新幹線に伴う共同溝敷 設工事	2.0	0.8 GL 1.65mで黒色 土 薄层。近 裏・中里・吉代、古代の清掃遺 跡。	50	
185	1997	29	東白	—	教	教育学部附属小・中学校後園擴改 工事	1.2	0.79 GL 1.1mで水田確認。講 1条。	50	
199	1998	15	津島北	BA09	宇	宇 構内外引設置工事	1.47	1.0 GL=1.42mで黑色土上面	53	
200	1998	22	津島北	AZ09, BA09	津 春	コラボレーションセンター・支陣配 管布設工事	1.4	1.0 1.4mで黑色土上面	53	
201	1998	24	津島南	BB12, BC12	春	東福路打設泥工事	1.4	0.95 中堅層まで掘削	53	
202	1998	31	津島北	AN03 - AY06	理	校舎新幹線に伴うガス管敷設工事	1.2~1.4	0.65~ 0.95 中堅層まで掘削	53	
203	1998	34	津島南	BC10	春	学生会館改修に伴うトックリ構築 工事	2.2	1.45 GL=1.7mまで灰褐色粘土層。 2.2mまで灰褐色土層。	53	
204	1998	35	津島北	BA00	宇	NTT 東日本校工事	1.5	0.9 透明白土層。褐色粘土層上。	53	
205	1998	36	鹿田	BV73 CN68	区	校舎新幹線に伴う施設電柱工事	1.2	1.0 中堅層まで掘削	53	
206	1998	41	津島北	AN03 - AY07	理	実験排水槽設置工事	1.4	0.6~1.4 中堅層まで掘削	53	
207	1998	42	津島北	AU02, AW02	理	馬場施設に伴う樹木移植	2.2	1.1~1.3 2.0mで砂引下層。2.2mで鐵 筋打設まで掘削	53	
208	1998	44	津島北	AV03, AW03	理	校舎新幹線に伴う生活排水構造工 事	1.97	1.4 古墳時代まで掘削、痕跡・土師 器を発見。	53	
209	1998	48	津島北	AW03	理	校舎新幹線に伴うガス管敷設工事	1.45	1.0 中堅層まで掘削	53	
213	1999	8	津島北	—	施	構内灯柱設置工事	1.15~1.35	0.5~1.2 28箇所。うち3箇所で黒色土確 認。	56	
216	1999	10	津島北	AW02, (G)	理	校舎(Ⅱ期)新幹線に伴う生活排 水・実験排水構	0.8~1.5	1.18~1.23 15箇所。うち1箇所で中堅層まで 掘削。	56	
217	1999	12	津島北	AZ05, 09	理	コラボレーションセンター新幹線工 事に伴うドームホール	1.48~2.1	2.03~1.16 2箇所。うち1箇所で古墳時代層 まで掘削。	56	
218	1999	13	津島北	AW02	理	概念(Ⅱ期)新幹線に伴うスロープ 設置工事	3.3	1.2 西側25m。黒色土下面を検査。 古代土塊、古代溝、陶文灰陶ビッ クト確認	56	
219	1999	15	鹿田	BV55~71	医	研究棟新幹線に伴う給排水管・管 渠	1.2~1.4	0.9 中堅層まで掘削	56	
220	1999	18	鹿田	BUS5	医	研究棟新幹線に伴う接木槽	2.2	1.1 同様 2m。近直構、中堅層・ ビット確認	56	
221	1999	27	鹿田	BY42~44, BI43~ 44	医	基幹整備(電気設備)施設配管	1.25~1.45	0.45~0.5 中堅層まで掘削、痕跡無の邊構 壁確認	56	
222	1999	41	鹿田	CP21~25, CL~CL 28, CD~CP28~33	医	病棟新幹線に伴う共同溝解体	1.7	同様 15m、鹿田11号 洪積土層 開削区分で中堅ビット確認	56	
223	1999	38	津島	AZ09	理	コラボレーションセンター新幹線に 伴う供排水構	1.0~1.2	0.8~1.0 6箇所。うち1箇所で黒色土対応 層まで掘削	56	
224	1999	46	鹿田	CN46, CW46, DA 45	医	病院新幹線に伴う污水渠	2.3	1.2 古墳時代層1基、土坑1基、中 堅層等の名前確認	56	
225	1999	47	鹿田	CM~CN~CP~CR~ TC58, CV~DA~ DC~DD~DP~DF	医	グラウンド防震キットボール	2.0~2.3	11箇所。南から6箇所は河道、 7~10箇所は高周波熱、最北端で は透視。	56	
226	1999	48	鹿田	BT51	医	病棟新幹線に伴う污水渠構造	2	1 透視土以下7層確認。古墳時代層 まで掘削	56	
228	2000	10	鹿田	CW~DA32~43	医	病棟新幹線工事 保育施設改修工事	0.7~0.95	既掘工事内、GL 0.7mで明治期 の瓦含層、黄褐色粘土質土(上 層)、褐色粘土質土(下層)	61	
230	2000	12	津島北	AN03, AZ02	医	保育施設工事(初期)新設工事、 ミライヤ木手移植	0.6~0.7	GL=0.5mで灰褐色粘土層、褐色 土層	61	
231	2000	13	鹿田	AE00, AE35, AE~ AH42~44, AE48	医	病院新幹線工事新設工事	1.0~1.1	0.5~1.0 4箇所掘削、うち2箇所は浅成工 事下に白褐色質土層	61	
234	2000	14	鹿田	AE45	医	天然ガス引替に伴う配管切り替 え及びバルブ設置工事	1.3~1.5	1.0~1.1 透成土下に灰褐色粘土層	61	
233	2000	15	津島北	AU07	理	J-Phone 中国株式会社・津島日動 車・博富野基地工事ボーリング接 地工事 建物施工	2.7	軽井用土層の露頭、地山	61	
236	2000	17	津島北	BA12	事	津島地図整理工事	1.6	1.0 透成土下に灰褐色粘土層、暗茶色 粘土層確認	61	
241	2000	22	津島北	AN02, AV03	理	岡山大学環境資源工学試験校(Ⅱ 期)新設工事	0.7~1.0	透成土下に灰褐色粘土層を確認	61	
242	2000	23	津島北	AY09	理	岡山大学(Ⅱ期)校舎改修工事一 棟新幹線橋脚補強工事	1.3	透成土下に灰褐色粘土層、暗茶 色粘土層を確認	61	
246	2000	25	鹿田	—	理	岡山大学(医師)病院新幹線その他 工事(若林・柏木)	—	豊と思われる遺構など確認	61	
248	2000	26	鹿田	CN15, 22, 27, CO 36, 43, CS45, CV 45	医	病棟柱及引張柱の埋設工事	1.6	灰白色土層、淡褐色粘土層、暗 褐色砂質土層を確認。いずれもし まい良く高堆疊五土とされる	61	

総合 登録 番号	年度	番号	道路名	調査地区	所轄	調査名称	測量深さ	造成土厚	概 要	文献
247	2000	28	津島北	AY10, AZ10	瀬	岡山大学(理) 枝条改修機械試験工事(瓦気)	0.85~1.60	0.8~1.1	南側ハンダホールはGL-1.6mまで削削し、GL-1.5mで芦田溝側から、南東から北西方向に向かって走行	61
250	2000	29	鹿田	DJ27	西	医療ガス配管切り替し用バルブ取付工事	0.8~1.15	0.7	GL-0.7mで暗青灰色地質上、-0.85mで黄褐色粘土質土	61
266	2000	42	津島北	AW06, AX08	工	岡山大学(工) 薬剤局施化学科部屋ガス改修工事	1.6~2.05	1.45	GL-1.6mで暗青灰色粘土質(明礬岩上)、GL-1.0mで明礬岩粘土上(中世壁?)壁芯	61
269	2000	44	津島北	BA15, 16	西	社会研究棟鉄筋柱塗装工事	1.5~1.7	1.0	GL-1.4mで中世壁?複数範囲の變山、土壌を一部削除	61
262	2000	47	鹿田	DG-DJ26~67	西	鹿田山地貯留水路整備改修	2.1~2.3	1.3~1.5	120mにわたって變山観察を行い、古代、古代の河道、遺構を確認	61

附表3 収蔵遺物概要

所轄	種類	地区	調査名	箱数(1箱:約0.001リットル)					参考	文献	
				枚数	上段	右端	小器	種子*	その他		
疾病	先振	鹿田第1次調査(外診察標本)		598	493	15.5	60	種子*	1	28	弥生中期～中世、灰陶、板甲軒、漆塗灰瓦等
*	*	鹿田第2次調査(NMR-CT室)		118.9	94	0.4	20	0.5	4	4	弥生後期～中世、田馬舟、木筒等
鉄鉢	*	鹿田第3次調査(校官)		131.6	36	0.3	90	0.3	3	5	古代～中世
疾病	*	鹿田第4次調査(管理機)		3.5	2	0.3		0.2	1	1	古代、夷角製品
疾病	*	鹿田第5次調査(管理機)		13.0	87	2.5	20	1.5	19	弥生後期～中世	
ア	*	鹿田6次調査		62	59	0.5	1	1.5		1	中世、青銅製鏡
西	*	鹿田第7次調査(基礎床下室)		81	66		10		1	4	弥生～近世
西	*	鹿田第8次調査(基礎床下室)		8	8					5	弥生～近世
疾病	*	鹿田第9次調査(井戸)		120.1	96	0.1	13	9	2	5	弥生～近世、木廻3点
疾病	*	鹿田第10次調査(井戸)		2	2					5	古代～近世
疾病	*	鹿田第12次調査(植樁日場)		74	66		4	2	2	5	弥生～近世、本巣1点
西	*	鹿田墓地周辺	(アメラギセンター)	132	77	1	54		15	5	弥生～近世、漆
全	*	津島岡大第1次調査(NP-1)		5	0.5	0.5	4			30	33
農	*	津島岡大第2次調査(豊予作低地耕作・配管)		17.5	12	1.5			4	38	43
学生	*	津島洞人第3次調査(男子学生寮)		67	59	1.5	2	4.5	10	48	4
*	*	津島洞人第4次調査(周辺運動場)		1	1					5	4
大日	*	津島岡大第5次調査(人字形井戸自然科学研究料)		82	68	3	1	8	2	津文後期～弥生前葉、試掘専業遺物全くなし	
丁	*	津島洞人第6次調査(生物井戸上生物学科)		49	33	1	9	6		27	津文後期～弥生、古代～近世葺松材、木長橋(櫛文)
工業	柴屋	津島洞人第7次調査		31.5	10	0.5	1		20	35	津文後期～近世、人形木器、アンペラ
全	*	津島洞人第8次調査		11.5	10	0.5			1	32	35
工	*	津島洞人第9次調査(全体構造整理)		30.5	30	2.5	3		15	47	35
全	*	津島洞人第10次調査(全体構造整理)		84	69		5		10	30	41
*	*	津島洞人第11次調査(全体構造整理)		5.5	3	0.5			2	26	46
*	*	津島洞人第12次調査(同書類)		55	24	1	20		10	33	46
*	*	津島洞人第13次調査(同書類)		12.5	12	0.5				41	46
*	*	津島洞人第14次調査(同書類)		13	12				1	33	46
*	*	津島洞人第15次調査(モリヨウ早設・南)	(モリヨウ早設・南)	67	33	10	20		24	38	46
農業	*	津島洞人第16次調査(植物光葉)		0.3	0.3					43	46
墳	*	津島洞人第17次調査(環境整理・学部校舎1層)		26	61	3			12	43	46
全	*	津島洞人第18次調査(土壤性粘土質)		1	1					53	46
*	*	津島洞人第19次調査(モリヨウ早設・南)	(モリヨウ早設・南)	45	24	1	4		14	53	46
埋	*	津島洞人第20次調査(浮遊物・学部ギンフ地)		1	1					53	46

所蔵	種類	地区	鉛錠(1路: 約30リットル)					備考	文獻	
			枚数	土器	石器	木器*	傳子*	その他		
T.	*	津島岡大寺21次調査	7	5	2				縄文中期～近世	52
理	*	津島岡大寺22次調査 (環境理学部校区Ⅱ路)	34	26	2	3		3	純文後期～近世、古代漆器材、曲げ物	53
文法経	*	津島岡大寺23次調査 (総合研究棟)	127	29	1	90	2	5	縄文後期～近世、石棒	56
文法経	*	津島岡大寺24次調査 (総合研究棟改修工事下)	21	1	0.1	1			縄文後期～近世	61
書	*	津島岡大寺25次調査 (土器部改修工事)	0.3	0.1		0.2			中・近世	61
事	*	津島岡大寺跡第36次調査 (事務室本部棟)	41	26		5		10	純文後期～近世	61
図	*	揖斐瀬路第1次調査(実験研究棟)	9	8				1	縄文早期・弥生中期・中世	56
図	*	揖斐瀬路第2次調査 (実験研究棟スロープ)	2.1	2			0.1		中世～近世	56
医病	試験・ 採集	岐阜・駒場	1	1					弥生～中世	5
学生	*	津島北 女子学生寮	1	0.7	0.3				縄文後期～弥生初期	*
教育	*	研究棟								
人白	*	・ 自然科学研究科棟	1	1					縄文後期～弥生初期	6
事	*	津島北 外国人宿舎(1号)	1	1					縄文～中世	8
津	*	津島北 参魔者場エレベーター	0.3	0.3					中・近世	*
教養	*	津島北	0.7	0.7					縄文～中世	*
I.	*	津島北 改容	1	1					縄文～近世	11
農業	*	津島南 動物・遺物系実験施設	0.7	0.7					縄文～弥生、中・近世	*
節	*	津島南 回廊交換施設	0.3	0.3					中世	*
大自	*	津島北 会計処理棟	0.2	0.2					中・近世	14
学生	*	津島南 生徒会館所	0.4	0.2			0.2		中世	*
教育	試験・ 採集	津島北 身障者用エレベーター	0.3	0.3					縄文	*
図	*	・ 掘削	0.8	0.8					古墳～中世	*
事	*	津島南 学生合宿所ダンプ場	0.4	0.4					縄文～中世	16
販	*	名 収 游客生物学研究所	0.1	0.1					近世	*
ア	*	名 国 アイソーネブ総合センター	1	1					中世～近世	*
事	*	津島北 植物研究所	0.5	0.5					弥生～中世	*
農	*	津島南 動物実験施設	0.1	0.1					縄文？～近世	33
道	*	津島北 環境理工所	0.1	0.1					中世	33
し	*	津島北 システム工学科棟	0.1	0.1					中世	33
全	立会	82年度	2	2					分離形山製品	1
*	*	83年度	1	1						2
*	*	85年度	1	1						3
*	*	86年度	0.5	0.5						6
*	*	87年度	0.5	0.5						8
分布	89年度 三樹・本島	0.3	0.3							14
全	立会	91年度 92年度	0.3	0.3						21 25
*	*	93年度 94年度 95年度 96年度 97年度 98年度 99年度	0.8	0.8						30 33
*	*	00年度	3	3						38 43
		総點数	237.9	1636.8	53	440.2	25	15.1	224.2	48

*木器・傳子・サンプルについては、資料整理が進むにつれ、特に収容形態が変化するため、総数の変化が顕著であることを説いておく。

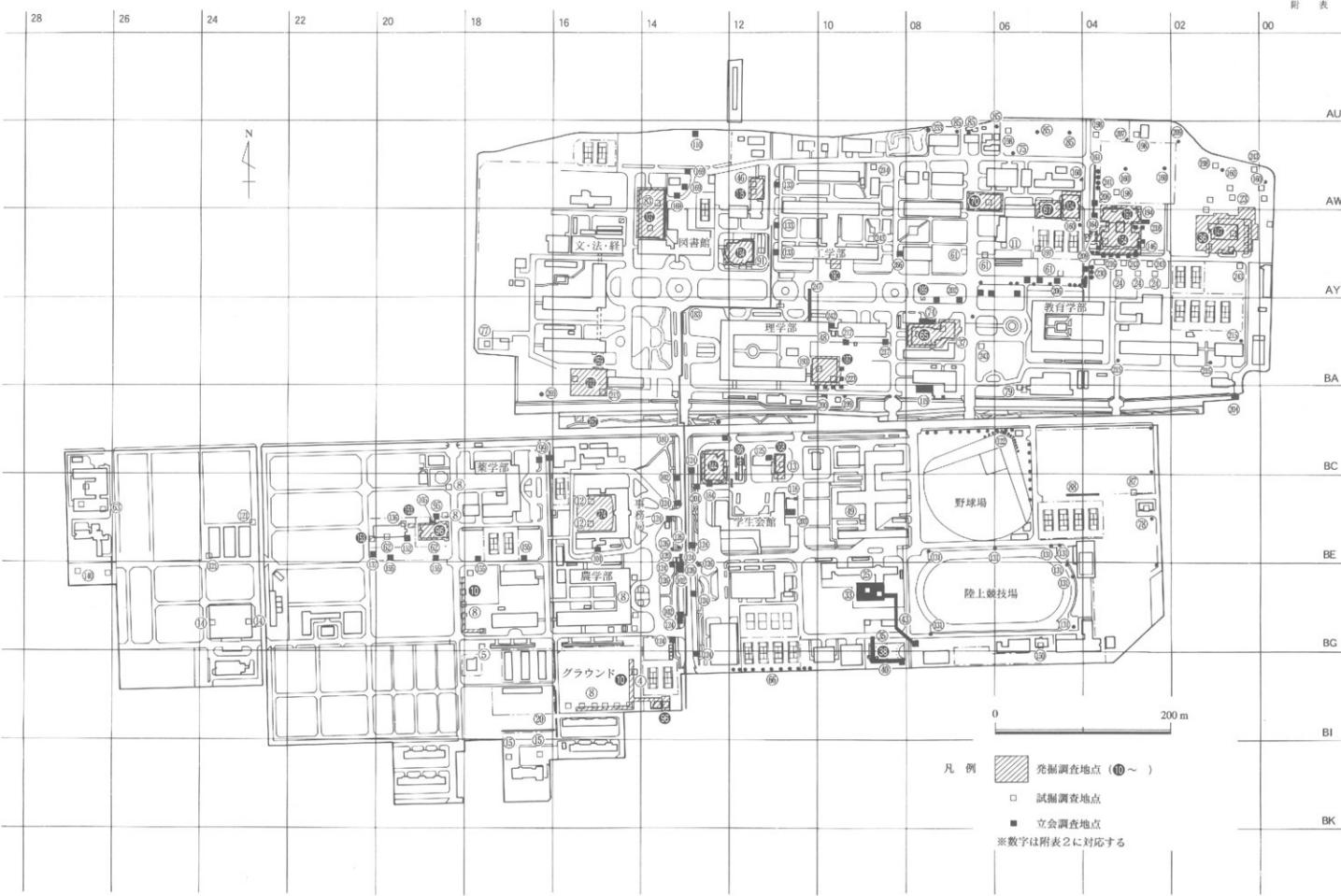
附表4 塙文化財調査室刊行物

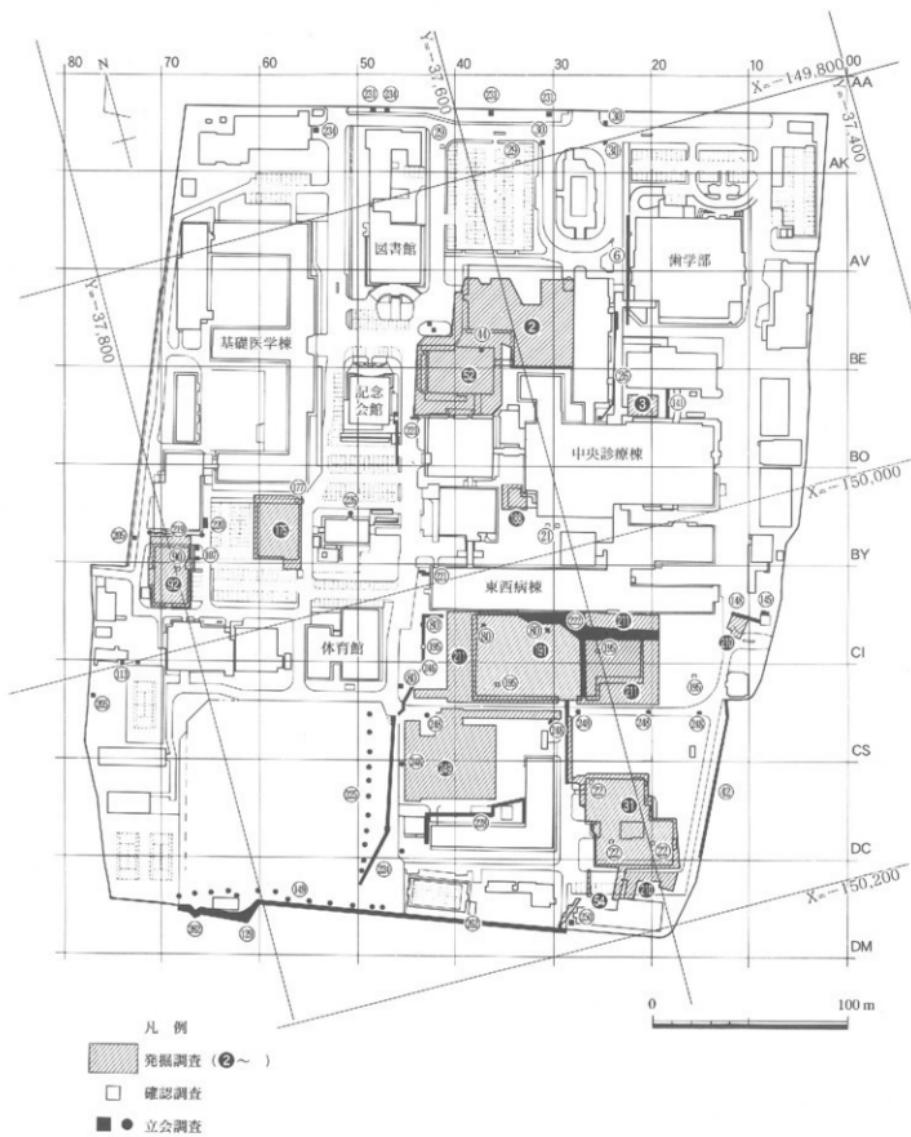
令号	名	年	月	発行年月日
1	岡山大学構内道路調査研究会報 1	1983年度		1983年2月
2	岡山大学構内道路調査研究会報 2	1984年度		1985年3月
3	岡山大学構内道路小橋辺石器発見(AW14区)の発掘調査	岡山大学構内道路発掘調査報告第1号		1985年5月
4	岡山大学構内道路構造調査報告書 II 「学费改廃(BM13区)」	岡山大学構内道路発掘調査報告第2号		1989年3月
5	岡山大学構内道路調査研究会報 3	1985年度		1987年3月
6	岡山大学構内道路調査研究会報 4	1986年度		1987年10月

附表5 塙文化財調査研究センター刊行物

令号	名	年	月	発行年月日
7	東山実習 I 岡山大学構内調査実習調査報告第3種			1988年3月
8	岡山大学構内道路調査研究会報 5	1987年度		1988年10月
9	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報告第1号			1988年10月
10	児田逸郎 II 岡山大学構内道路発掘調査報告第4号			1990年3月
11	岡山大学構内道路調査研究会報 6	1988年度		1989年10月

番号	名 称	発行年月日
12	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報告第2号	1989年8月
13	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報告第3号	1990年2月
14	岡山大学構内遺跡調査研究報告 第1 1989年度	1990年11月
15	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報告第5号	1990年7月
16	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報告第6号	1991年3月
17	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報告第7号	1991年8月
18	岡山大学構内遺跡調査研究報告 第8 1990年度	1991年12月
19	津島南大通路 3 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第5冊	1992年3月
20	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報告第1号	1992年3月
21	岡山大学構内遺跡調査研究報告 第9 1991年度	1992年12月
22	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報告第8号	1993年8月
23	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報告第9号	1993年3月
24	飛田遺跡 3 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第6冊	1993年3月
25	岡山大学構内遺跡調査研究報告 第10 1992年度	1993年12月
26	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報告第10号	1993年11月
27	津島南大通路 4 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第7冊	1994年3月
28	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報告第11号	1994年3月
29	岡山大学構内遺跡調査研究センター報告第12号	1994年10月
30	岡山大学構内遺跡調査研究報告 第11 1993年度	1995年2月
31	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報告第13号	1995年3月
32	津島南大通路 5 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第6冊第8巻	1995年3月
33	岡山大学構内遺跡調査研究報告 第12 1994年度	1995年12月
34	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報告第14号	1995年10月
35	津島南大通路 6 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第9冊	1995年12月
36	津島南大通路 7 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第10冊	1996年2月
37	岡山大学構内遺跡調査研究センター報告第15号	1996年3月
38	岡山大学構内遺跡調査研究報告 第13 1995年度	1996年10月
39	岡山大学構内遺跡調査研究センター報告第16号	1996年10月
40	津島遺跡 1 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第11冊	1997年3月
41	津島南大通路 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第12冊	1997年3月
42	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報告第17号	1997年3月
43	岡山大学構内遺跡調査研究センター報告第18号	1997年9月
44	飛田古墳 内藏物調査研究報告 第1996年度	1997年11月
45	今、よみがえる古代 岡山大学埋蔵文化財調査研究センターの10年	1997年11月
46	津島南大通路 9 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第13冊	1997年12月
47	津島南大通路 10 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第14冊	1998年3月
48	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報告第19号	1998年3月
49	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報告第20号	1998年10月
50	岡山大学構内遺跡調査研究報告 第15 1997年度	1999年1月
51	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報告第21号	1999年3月
52	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報告第22号	1999年9月
53	岡山大学構内遺跡調査研究報告 第16 1998年度	2000年1月
54	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報告第23号	2000年3月
55	飛田遺跡 1 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第15冊	2000年3月
56	岡山大学構内遺跡調査研究報告 第17 1999年度	2000年8月
57	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報告第24号	2000年9月
58	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター自己負担・外部評議形告書	2000年12月
59	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報告第25号	2001年3月
60	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報告第26号	2001年8月
61	岡山大学構内遺跡調査研究報告 第18 2000年度	2001年10月
62	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報告第27号	2002年3月





※数字は附表2に対応する

図17 2000年度までの調査地点（2）鹿田地区（縮尺1/2500）

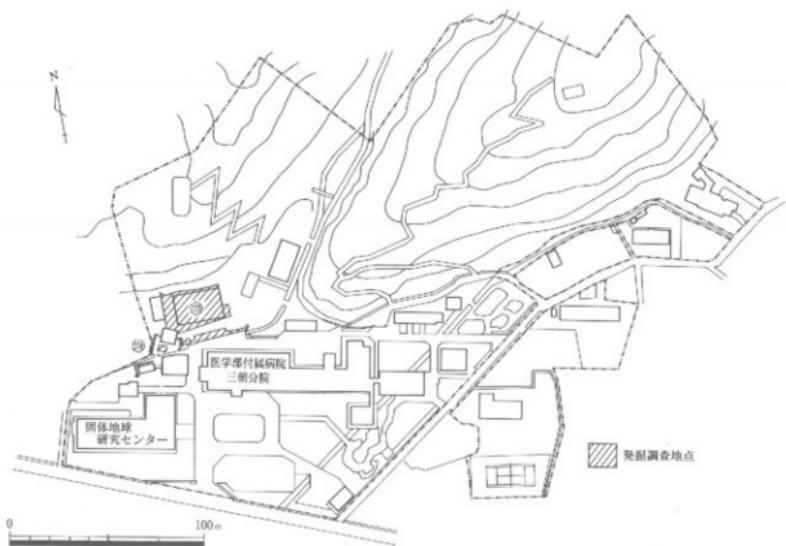


図18 1998年度までの調査地点 三朝地区（縮尺 1/2500）

Copyright©Archaeological Research Center, Okayama University
Printed in Okayama, Japan

2003年3月28日 発行

岡山大学埋蔵文化財調査研究センター紀要
2001

編集・発行 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター

岡山市津島中3丁目1番1号

(086) 251-7290

印刷 西日本法規出版株式会社



BULLETIN of
Archaeological Research Center
Okayama University
2001

Archaeological Research Center, Okayama University
3-1-1 Tsushima-Naka Okayama-city, 700-8530 Japan
<http://www.okayama-u.ac.jp/user/arc/archome.html>